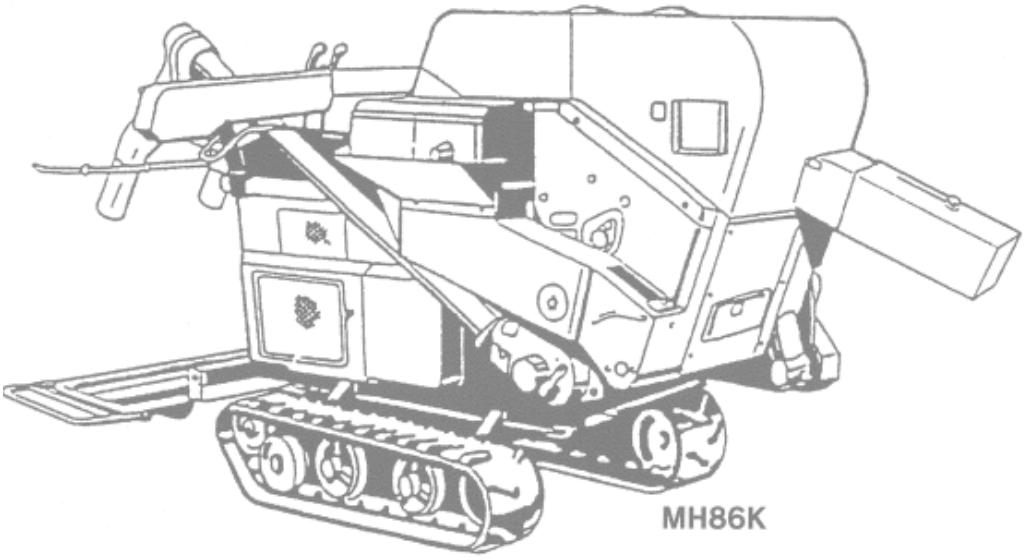
ハーベスタ

取扱説明書

MH 86
MH 76



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

ハーベスタ重要安全ポイント

1．脱穀作業をするときは、
脱穀チェン・回転部に 注意します。

2．ハーベスタを動かすときは、
安全力バー類が組み付いている事を確認 します。

3．ほ場へ出入りするときは、
スピードを落としあぜに直角に 走行します。

4．ハーベスタや作業機を点検掃除するときは、
必ずエンジンを停止し、エンジンや作動部が
停止したことを確認 します。

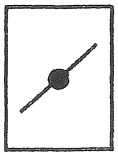
5．補助者と共同作業を行なうときは、
合図をし **安全を確認** します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を⚠を付して説明のつどとり上げております。
よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

操作装置のシンボルマーク

運転操作および保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。これらの表示に従って誤操作のないようにご使用ください。


チョーク

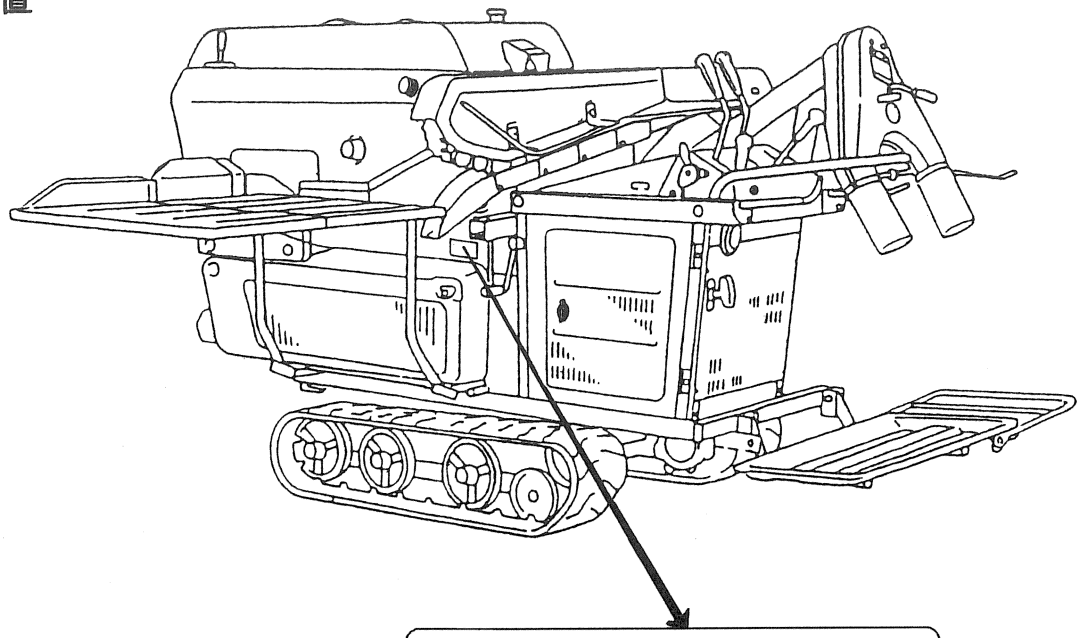
はじめに

- この度は、弊社ハーベスタをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- この説明書は、ハーベスタを使用する際に是非、守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項、ハーベスタを適切な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。記載以外についても運転される皆様ご自身が安全確保に細心の注意をはらってご使用ください。
- このハーベスタは、稲・麦脱穀用です。使用目的以外の作業及び改造などは決して行なわないでください。
- ハーベスタを初めて運転される時はもちろん、日頃の運転・取扱いの前にも初心に立ち返り入念に読み、十分理解され安全・確実な作業を心がけてください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。
- ハーベスタを貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書をハーベスタに添付してお渡しください。
- ハーベスタに貼られた ⚠ の表示がある安全表示ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合、および安全表示ラベルが汚損したり、はがれた場合は、速やかにお買いあげいただいた、販売店・農協にご注文ください。なお、安全表示ラベルは必ず所定の位置に貼ってください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。
  その際には、本書の内容およびイラストなどの一部が、本ハーベスタと一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- もしおわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買いあげいただいた販売店・農協にご相談ください。
- 取扱説明書の中の ⚠ 重要 表示は、下記の様に安全上、取扱上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守っていただくようお願いいたします。

表　示	重　要　度
⚠ 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
⚠ 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠ 注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものを示しております。
重要	製品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。よく読んで製品の性能を最大限発揮してご使用ください。

● この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分のハーベスタについて併記してあります。お買いあげいただいた、ハーベスタの型式・区分を、機体に貼付してある銘板で確認され、該当する部分をお読みください。

銘板の位置



（例）

農業機械の種類　自動脱穀機（自走式）
型式名
区分
販売型式名
製造番号
製造元

三菱農機株式会社

ご確認頂きたい項目

区分	装備内容	区分	装備内容
K	スタンダード　仕様	—	エコノミー　仕様

目　　次

ハーベスタ重要安全ポイント …… I
はじめに …… II

⚠ 安全のポイント …… 1

安全な作業をするために …… 1
安全表示ラベルについて …… 10
安全表示ラベル貼付位置 …… 11

保証とサービスについて …… 12

各部の名称と働き …… 13

各部の名称と機体方向 …… 13
名称と働き …… 15

毎作業前点検 …… 18

各部の給油 …… 18
各部の注油 …… 19
緊急エンジン停止スイッチの作動確認 …… 20

運転のしかた …… 21

移動と運搬 …… 21

エンジン始動 …… 21
エンジン停止 …… 22
発進と運転のしかた …… 22
自動車等への積込み・積降ろしについて …… 24
自動車等での運搬 …… 25
ほ場への出入り …… 25
ほ場内の移動 …… 26

作業のしかた …… 27

快適作業のための作物とほ場 …… 27

作物の条件 …… 27
ほ場の条件 …… 27

格納部品の取付けかた …… 28

稲置台 …… 28
排出筒 …… 28

籾受台 …… 28
袋ホルダー …… 28
排ワラ装置 …… 29
籾　袋 …… 29
作業に適した調節のしかた …… 30
レールベースの調節 …… 30
回転計の調節 …… 30
排塵量の調節 …… 31
吸引風量の調節 …… 31
選別仕切板の調節 …… 32
排出筒の方向調節 …… 33
ノッタ使用時のワラ押えの調節 …… 33
脱穀作業のしかた …… 34
脱穀部の運転 …… 34
稲束の供給 …… 35
回転計の調節 …… 35
脱穀部の緊急停止 …… 35
籾袋の交換 …… 35
不調時の対応のしかた …… 36
エンジンがかからない …… 36
エンジンの力がない …… 36
選別が悪い …… 36
籾の飛散が多い …… 36
こぎ残りが多い …… 37
こぎ室内でゴトゴト音がする …… 37
点　検　整　備 …… 38
点検整備一覧表 …… 38
使用者が行なってはいけない修理 …… 39
使用済の資材の処分について …… 39
オイル類の点検整備 …… 39
エンジンオイルの交換 …… 39
走行ミッションオイルの交換 …… 40
脱穀ギヤーオイルの交換 …… 40
防塵装置の点検整備 …… 41
エアークリーナの掃除 …… 41
リコイルスタータの掃除 …… 41
燃料コックの掃除 …… 42
各部の掃除 …… 43

ワイヤとロッドの点検整備 …… 46
駐車ブレーキワイヤの調整 …… 46
サイドクラッチワイヤの調整 …… 46
脱穀クラッチワイヤの調整 …… 46
走行クラッチロッドの調整 …… 47
アクセルワイヤの調整 …… 47
ベルト、チェン、クローラの点検整備 …… 48
各ベルトのテンション調整 …… 48
脱穀チェンの調整 …… 49
クローラの調整 …… 50
その他の点検整備 …… 51
こぎ歯、受網のスキマ調整 …… 51
切刃の交換 …… 51
点火プラグの調整 …… 52
長期格納時の手入れ …… 53
燃料の抜きとり …… 53
清掃のしかた …… 53
格納のしかた …… 53
サービス資料 …… 54
推奨潤滑油一覧表 …… 54
純正オイル一覧表 …… 54
諸　　元 …… 55
主な消耗部品一覧表 …… 56
付属工具一覧表 …… 56
ベルトサイズ一覧表 …… 57
注文部品の紹介 …… 58

⚠ 安全のポイント

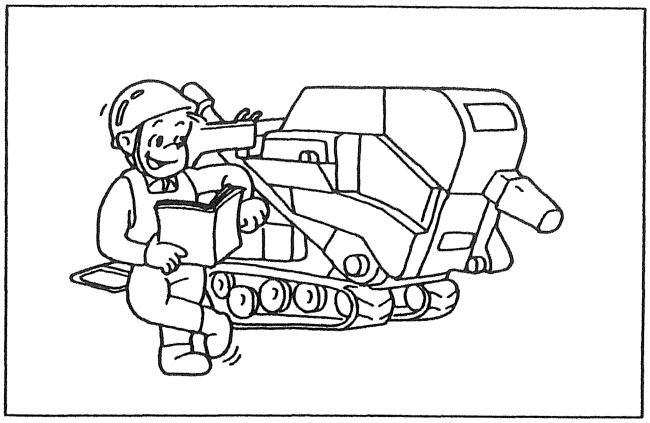
本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

安全な作業をするために

■運転者の条件

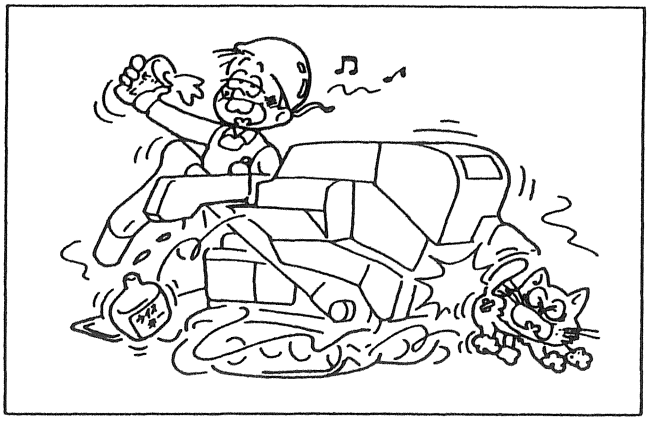
⚠ 注 意

この「取扱説明書」をよく読むことからはじめてください。これが安全作業の第一歩です。



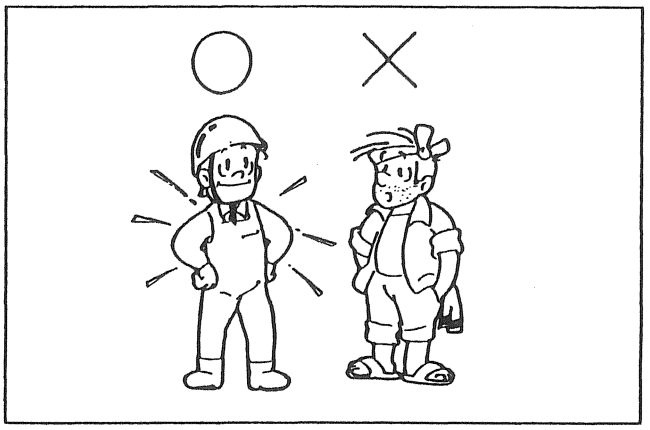
⚠ 警 告

飲酒時、過労、病気、薬物の影響により正常な作業ができない時、妊娠している人、18才未満の人、未熟練者の人は作業をしてはいけません。このような時作業を行うと誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。作業する時は、必ず心身とも健康な状態で行なってください。



⚠ 警 告

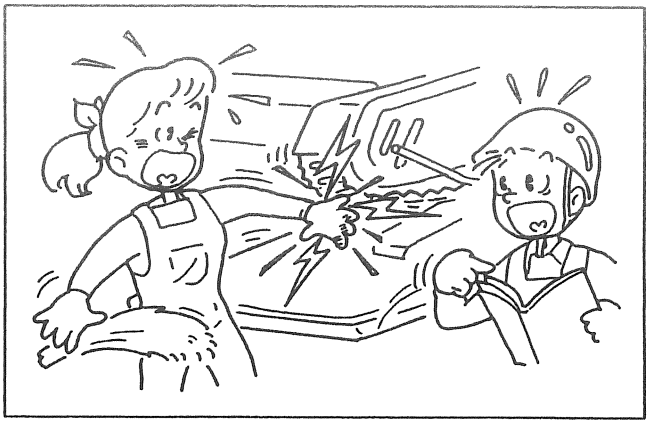
作業に適した服を着用してください。
はちまき・首巻き・腰タオルは厳禁です。
機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあるのでヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等をつけて、だぶつきの無い服装をしてください。



■人に機械を貸すときは

⚠ 警 告

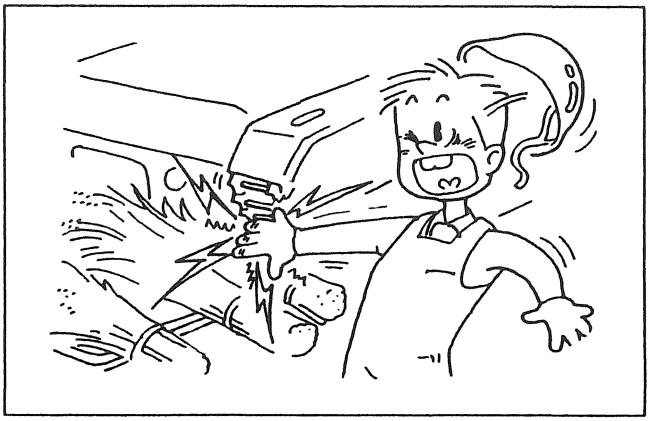
機械を貸すときは、機械を正しい状態にしてから貸してください。また取扱いの方法をよく説明し、使用前に取扱説明書を熟読するように指導してください。借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



■作業を開始する前に

⚠ 注 意

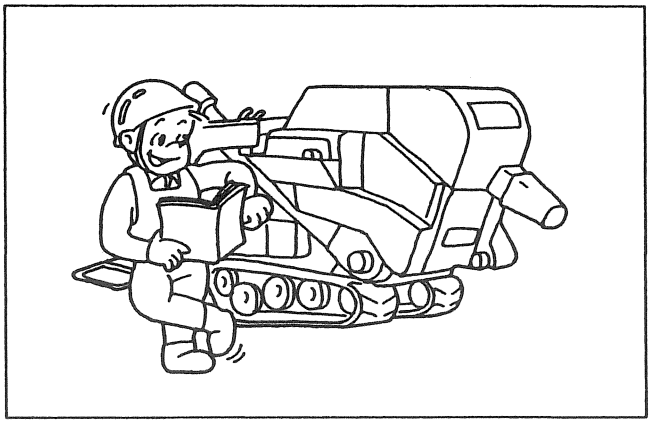
無理のないゆとりある作業計画をたてましょう。無理な作業計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。



⚠ 警 告

点検整備について

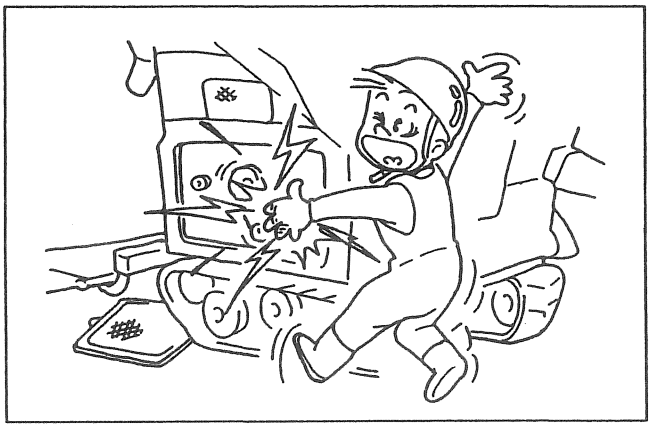
取扱説明書に従って点検整備を実施しましょう。これは機械を長持ちさせると共に、安全で効率的な作業が行なえる第一歩です。



⚠ 注 意

安全カバー類の装着確認

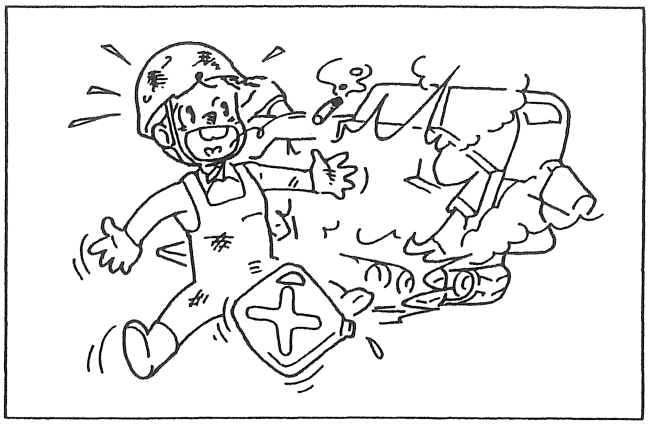
安全カバー類を外したままになっていないか確認しましょう。外したまま作業を行なうと危険な部分が露出して大変危険です。



⚠ 危 険

燃料補給時火気厳禁

燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。またエンジンは必ず停止し、エンジン周辺および過熱部分が冷えてから補給してください。



■エンジンの始動と発進

⚠ 警 告

室内では十分に換気を

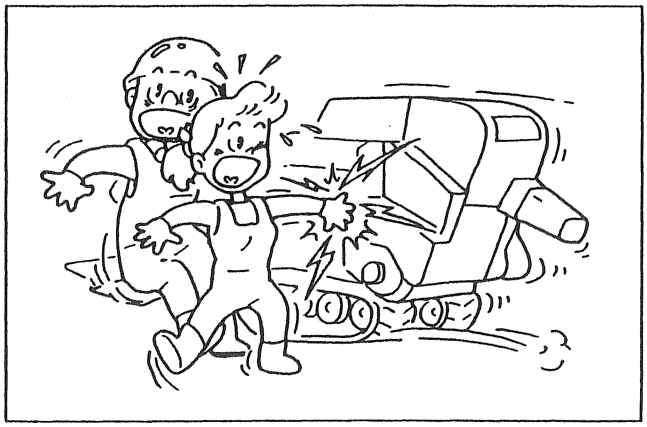
点検・整備に限らず、室内でエンジンを掛けるときは、窓を開けて、換気を十分にして行なってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。



⚠ 注 意

エンジンの始動は周囲を確認してから

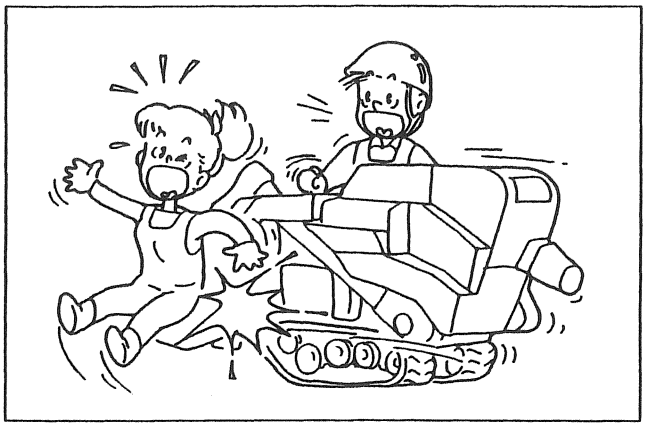
エンジンを始動するときは、変速レバーの位置が「止・(中立)」その他レバー類の位置が「切」であることと、周囲の安全を確認してから行なってください。確認を怠ると、急発進したりして大変危険です。



⚠ 注 意

急発進は危険

発進するときは、周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。急発進すると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

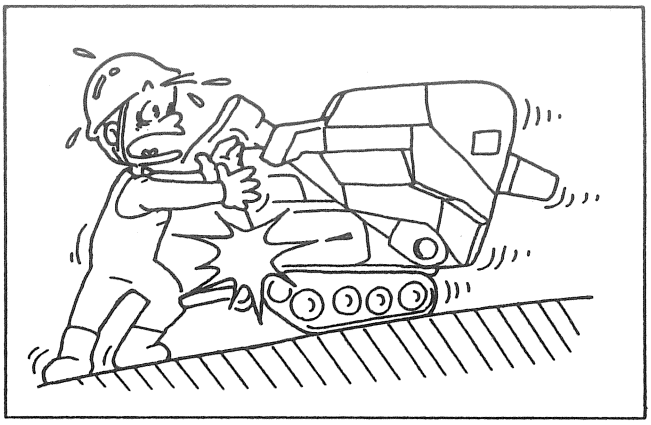


■走行するときは

⚠ 警 告

日常点検について

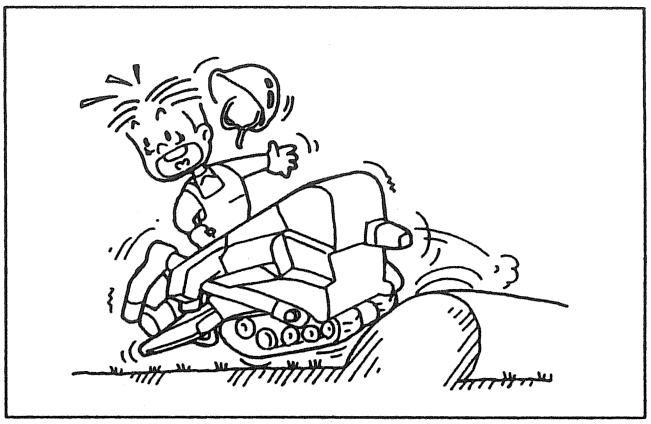
作業する前に必要な点検は必ず行なってください。特にブレーキおよび主クラッチ関係は、忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れなかったりして、走行中や作業中の思わぬ事故につながります。



⚠ 警 告

正しい運転操作で

クラッチは正しく操作し、わき見運転をしてはいけません。接触事故や転落事故を引き起こす原因になります。

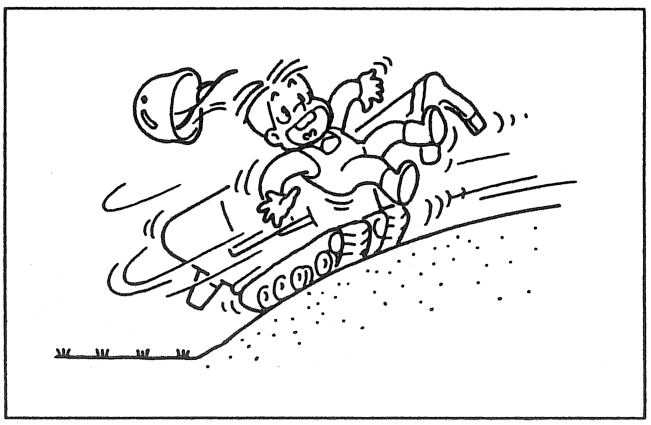


⚠ 警 告

坂道走行

坂道では、急な旋回をしてはいけません。急旋回すると、転倒事故の原因になり大変危険です。

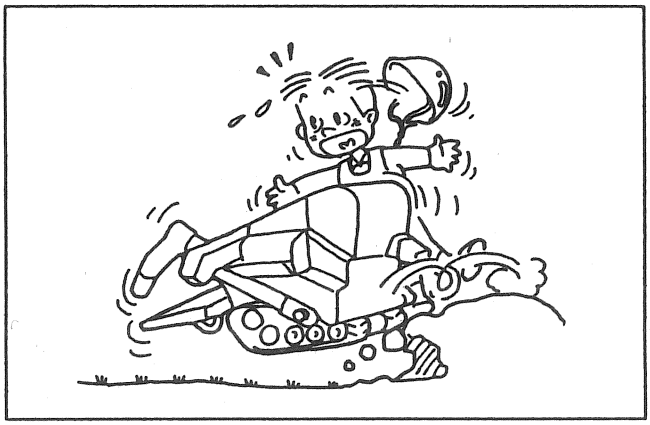
また坂道を登り、下りするときは、エンジン低速でゆっくりと行なってください。

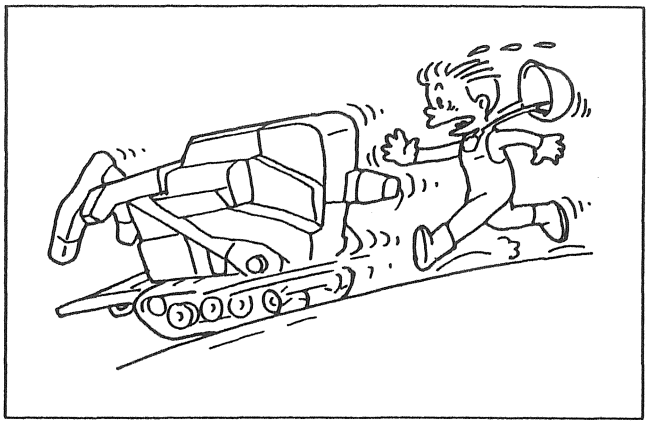


⚠ 警 告

道では路肩に注意

側溝のある道や、両側が傾斜している道を走行するときは、速度を落として十分注意して走行してください。路肩が崩れて、転倒したりして大変危険です。





⚠ 注 意

機械から離れるとき

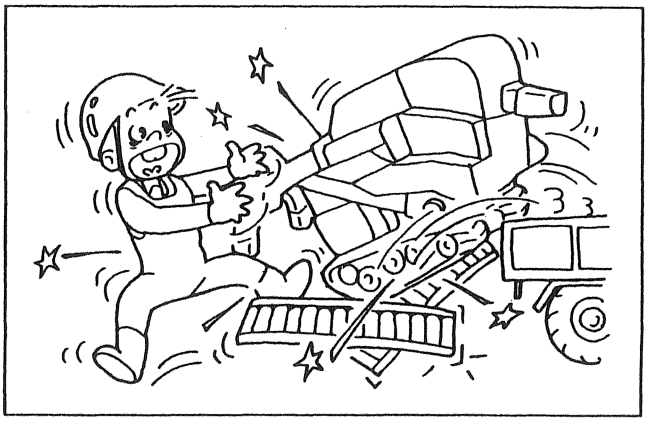
機械から離れるときは、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、歯止めをしてください。また、止める所は、広くて平らで、地面の硬い場所を選んでください。そうしないと機械が、自然に動き出したりして大変危険です。

■公道走行禁止

⚠ 警 告

この機械は、公道を走行することはできません。移動するときにはトラック等で輸送してください。

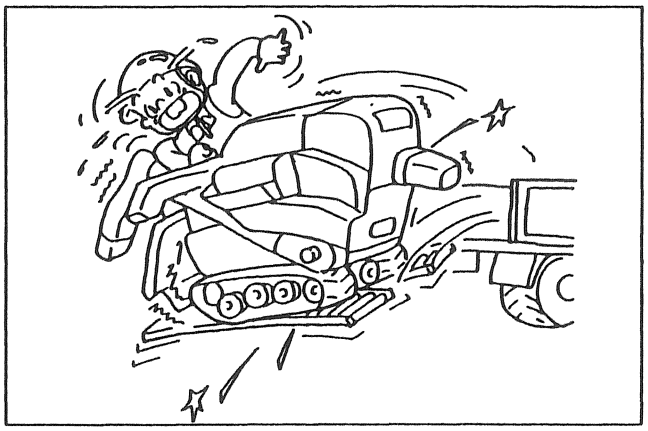
■トラックへの積込み・積降ろし



⚠ 警 告

積込むトラックは、エンジンを止めて、変速を「P」または「1速」か「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めを行なってください。

これを怠ると、積込みや積降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。



⚠ 警 告

積込み・積降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミを使用し、直進性を見定めて、積込みは「前進」、積降ろしは「後進」で、ゆっくり行なってください。これを怠ると、転落事故の原因になり大変危険です。

⚠ 警 告

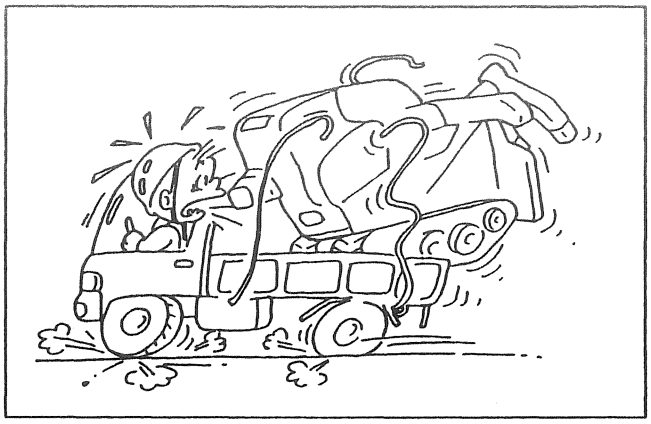
積込み・積降ろし中は、サイドクラッチを操作してはいけません。機体が横ブレして、転落事故の原因になり大変危険です。

⚠ 警 告

運搬するとき

トラック等で運搬するときは、必ずロープ等で荷台に固定してください。

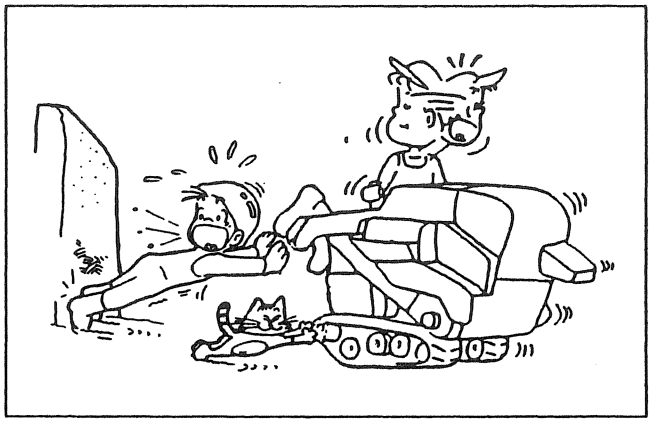
また、運搬中の運転は、急発進・急旋回・急ブレーキをしてはいけません。機械が移動して大変危険です。



⚠ 警 告

後進時には、後方の障害物との安全距離を確認してください。

怠ると、機械と障害物にはさまれ大変危険です。

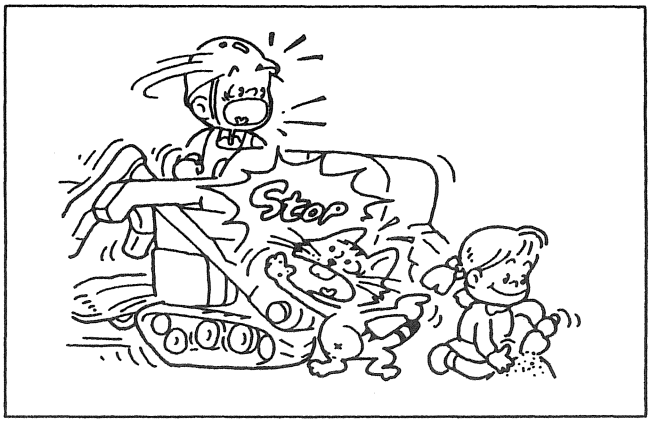


■作業中は

⚠ 警 告

作業中は回りの人に注意（特に子供）

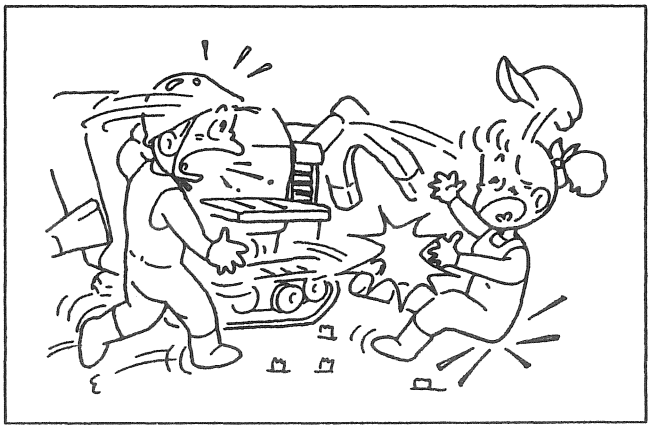
作業中は、人やものや動物などを機械に近づけてはいけません。機械自体や作業による飛散物などで、傷害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。



⚠ 警 告

作業開始は合図を

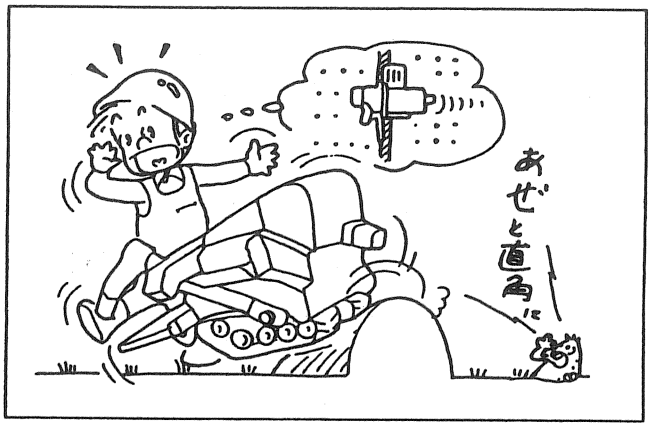
作業を開始するときは、周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業する場合は、声をかけ合図してから行なってください。怠ると、傷害事故の原因になり大変危険です。



⚠ 警 告

あぜ越え時の注意

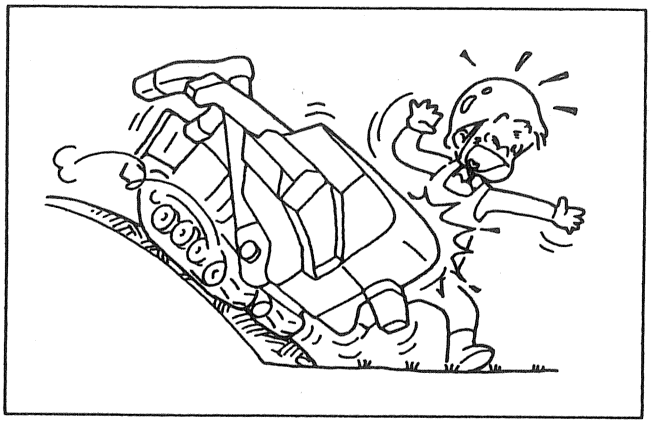
あぜを横断するときは、エンジンを低速にして、あぜと直角にゆっくり走行してください。斜めに横断すると、スリップや転倒の原因になり大変危険です。



⚠ 警 告

アユミを使ってほ場の出入り

あぜの高さが高い所（段差10cm以上）でのほ場の出入りでは、必ずアユミを使用してください。使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、転倒する事があり大変危険です。

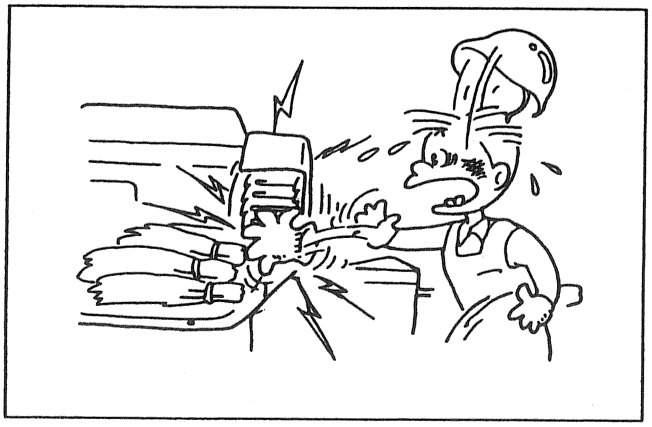


⚠ 警 告

脱穀チェンへの巻き込まれに注意

作物供給は、脱穀チェンに手や衣服を巻き込まれないよう供給口をよく見ながら作物を送り込んでください。

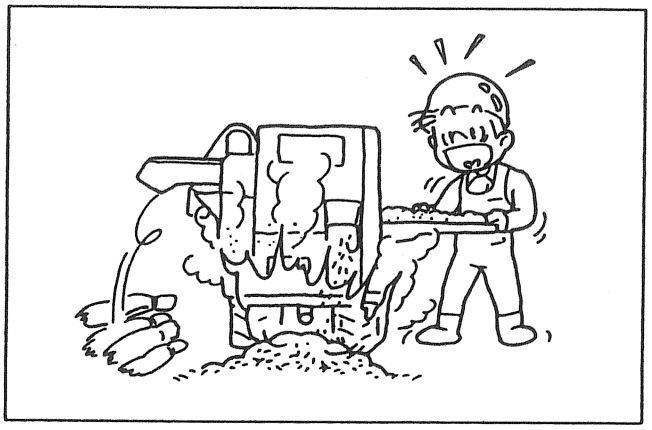
特に手袋は巻き込まれますので使用しないでください。



⚠ 危 険

ワラ屑・ワラ束の上での作業は火災の原因になります。本機の下部はマフラーの排熱で非常に高温になっています。

本機の下部のワラ屑・ワラ束を取除いたうえで作業をしてください。



■夜間作業の禁止について

⚠ 注 意

夜間作業は危険なのでしないでください。

作業は早めに切上げてください。

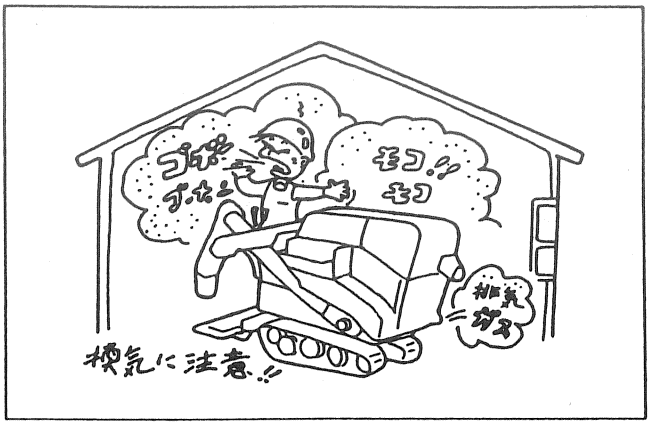
暗くなるまで作業をしていると事故を起す恐れがあります。

■点検・整備

⚠ 警 告

室内では十分に換気を

点検・整備に限らず、室内でエンジンを掛ける場合は、窓を開けて、換気を十分にして行なってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。



⚠ 警 告

点検整備するときは、明るく平らな広い場所で行なってください。

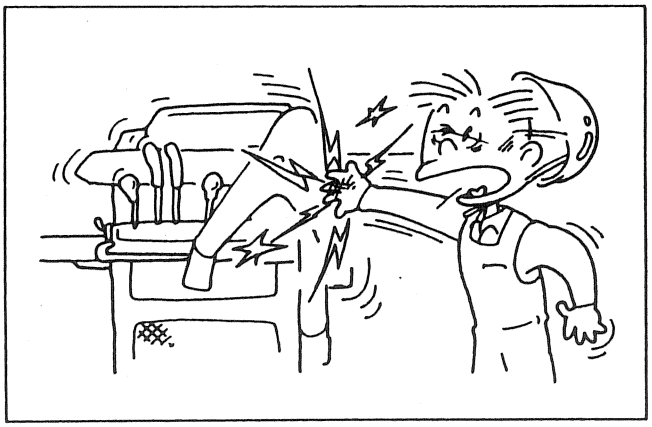
これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



⚠ 警 告

点検・整備はエンジンを止め、機械のあらゆる箇所が停止し、発熱部が完全に冷てから行なってください。

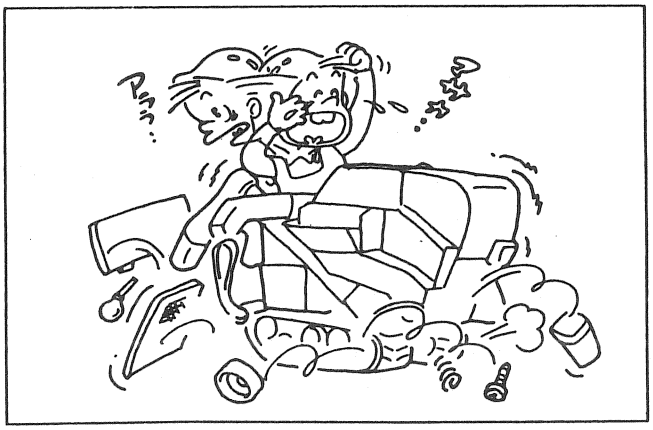
怠ると手や衣服が巻きこまれたり、やけどをしたりして大変危険です。



⚠ 警 告

点検・整備は適正な工具で

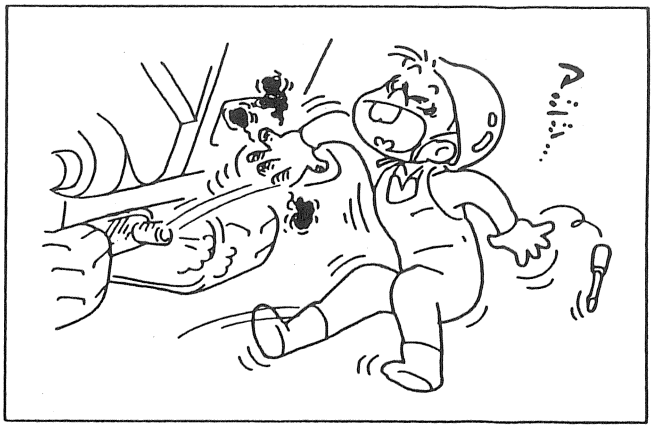
点検・整備を行なうときは、適正な工具を正しく使用して行なってください。間に合わせの工具で行なうと、整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こし大変危険です。



⚠ 警 告

過熱部分は冷えてから

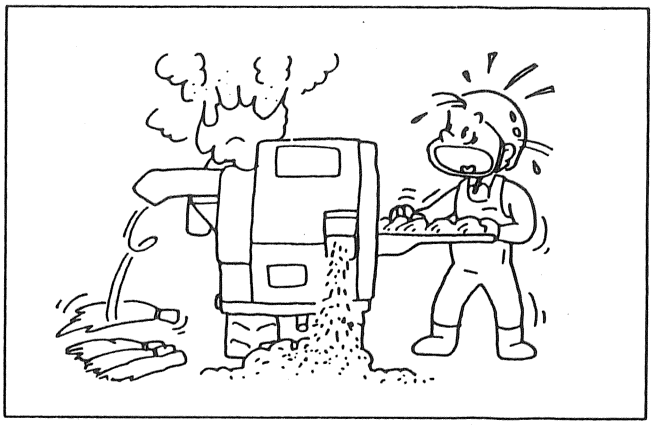
エンジンを切ってすぐに、点検・整備をしてはいけません。エンジンと、その周辺および回転部などの過熱部分が、完全に冷えてから行なってください。怠ると、やけどなどの原因になります。



⚠ 警 告

過熱部分の掃除を十分に

点検・整備を行なうときは、マフラなどの過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取除いてください。怠ると、作業中に発火したりして、火災を引き起こす恐れがあります。



⚠ 警 告

機械の改造は厳禁

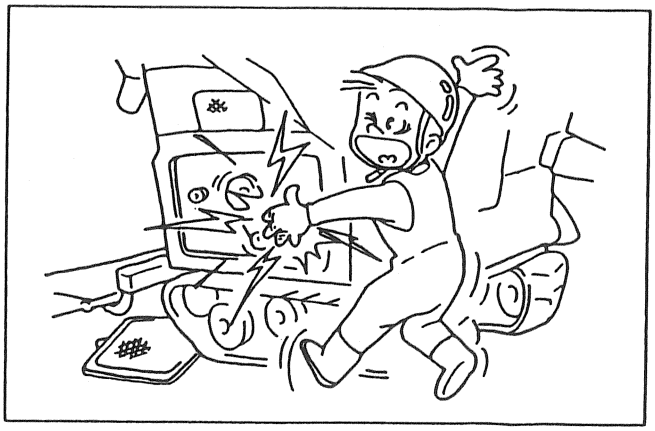
指定以外のアタッチメントの取付けや、改造は、絶対にしてはいけません。

機械の故障や、事故の原因になり大変危険です。

⚠ 警 告

カバー類は元通りに

点検・整備で取外した安全カバー類は、必ず元のとおりに取付けてください。外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因になり大変危険です。

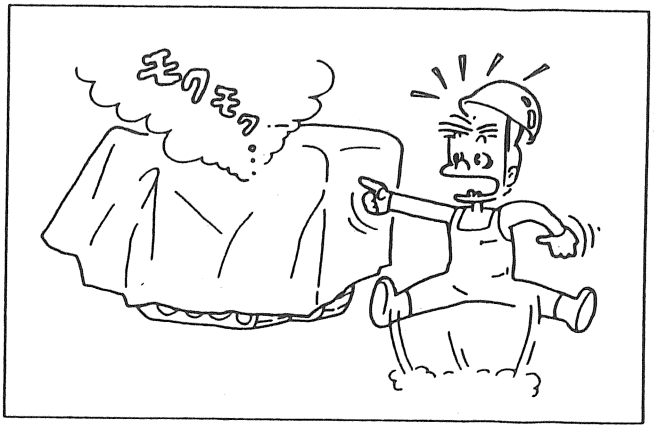


■格納・保管時は

⚠ 警 告

シートカバーは機械が冷えてから

作業が終了して、シートカバーなどを機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。



安全表示ラベルについて

(1) ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布で拭いてください。

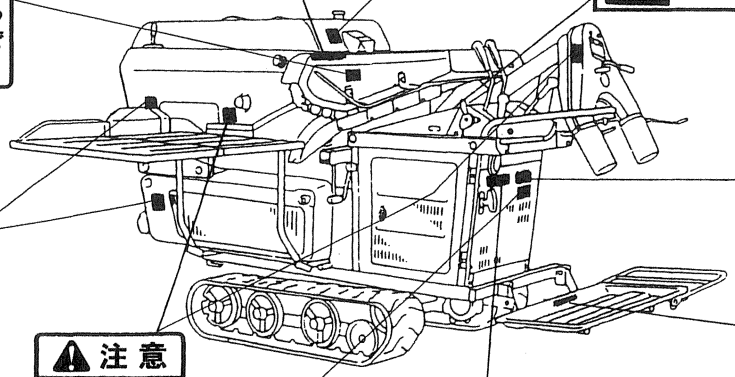
(2) 高圧洗浄機などで洗浄すると、圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。圧力水を直接ラベルにかけないでください。

(3) 破損や紛失したラベルは、商品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。

(4) ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

(5) 新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。

安全表示ラベル貼付位置



⚠警告

手こぎ作業で、手・腕・衣服がチェンにはさまれたり、こぎ歯に巻き込まれて、ケガをする危険性があります。
1. 平らな所で走行部を止めてください。
2. 手・腕がチェン・こぎ歯にふれないように少しずつ送り込んでください。
3. ワラの巻付き・詰りの除去のときは、エンジンを必ず止めてください。

3103-905-033-1A
4317-0000-070

⚠注意

回転部に接触し、ケガをするおそれがあります。エンジン運転中は、カバーを開けないでください。

3680-901-004-0
9731-0000-150

⚠警告

- 取扱い説明書には安全にご使用いただくための注意事項が書いてあります。ご使用前に必ずお読み下さい。
- ガソリンは引火性が強く火災となる危険があります。火気厳禁／給油時はエンジンを停止して下さい。
- 排気ガスには一酸化炭素が含まれ人体に有害で死亡することもあります。室内や換気の悪い場所では運転しないで下さい。
- マフラーは高温となり触れるとやけどをします。触れないようにして下さい。

4318-0000-060
(エンジン燃料タンク上部)

⚠危険

火災の恐れあるため、ワラ上での作業禁止

3100-901-014-0
4318-0000-350

⚠危険

火災になることがありますので次のことを守ってください。
1.本機の下部は、マフラの排熱で非常に高温となりますのでワラやワラクズを、必ず取除いて作業してください。
2.エンジン周囲のワラクズは常に取除いてください。
3.給油時はエンジンを停止し燃料をこぼさないでください。

3103-904-005-0
4317-0000-030

⚠注意

駆動しているベルトに接触しケガをするおそれがあります。エンジン運転中は、カバーを開けないでください。カバーは必ず取付けて使用ください。

3823-901-001-0
9731-0000-600

⚠注意

穂受台に乗らないでください
移動する時は必ず折りたたんでください。

3103-904-012-0
4317-0000-050

⚠注意

ケガをするおそれかありますので運転中は手を入れないでください。

3533-901-015-0
9731-0000-070

⚠注意

カバーを外したまま使用すると、ケガをする恐れがあります。必ず取付けて使用してください。

1675-905-012-0
9911-0000-920

⚠注意 機械を運転するときは、必ず取扱説明書をよく読んでから作業してください。

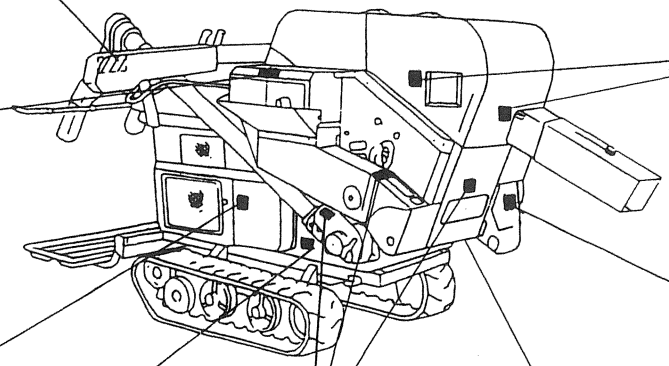
1. 作業前・後の点検は
   - ○燃料の給油と各部の点検は必ずエンジンを停止し、冷えてからにして、火気を近づけないでください。
2. エンジンを始動する前は
   - ○各部のカバーは所定の位置に取付けてください。
   - ○機械を運転する時は周囲の安全を確かめ合図して機械に人を近づけないでください。
   - ○室内でのエンジン始動は、窓や戸を開けて換気を十分にしてから行なってください。
   - ○駐車ブレーキをかけ、各クラッチレバーを「切」チェンレバーは「止」・(中立) にしてください。
3. 作業中は
   - ○エンジンの回転中には、作動部へ手・足・衣服を近づけないでください。
   - ○手こぎ作業時は、手・腕・衣服がチェンにはさまれたり、こぎ歯にふれたりしないでください。
4. 走行・駐停車は
   - ○発進・旋回・荒地での運転は、低速で行なってください。
   - ○傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。
   - ○軟弱な路肩・がけ際・草の生い茂っている所は、走行しないでください。
   - ○あぜを横切るときは、前進・低速であぜに対して直角に走行してください。
   - ○駐・停車は、平らな所で駐車ブレーキをかけて、各クラッチレバーは「切」、エンジンは止めてください。
   - ○坂道駐車は、クローラに「歯止め」をしてください。
5. 車への積込み・積降ろしは
   - ○平らな所で、補助者の立合誘導で行なってください。
   - ○アユミは機械に合った強度幅・長さ（荷台高さの4倍以上）のある、スベリ止め、フック付のものを使用し、左右のクローラ位置に合わせ、荷台に平行に外れないようにかけてください。
   - ○積込みは前進、車から降すときは後退でエンストしない程度の低速で行なってください。
   - ○アユミ上での機械操作は行なわないでください。
   - ○公道は自動車に乗せて移動してください。
6. 清掃は、エンジン停止確認後、行なってください。

3103-904-011-0
4317-0000-040

⚠注意

1. 回転物に接触するとケガをするおそれがあるのでカバーの下側に手を入れないでください。
2. ワラの巻付き・引っかかり・詰り除去のときは、エンジンを必ず止めてください。
3. 点検・調整後はカバーを必ず取付けてください。

3101-905-034-0
4318-0000-030



⚠注意

ケガをするおそれかありますので運転中は手を入れないでください。

3533-901-015-0
9731-0000-070

⚠注意

ケガをするおそれかありますので運転中は手を入れないでください。

3533-901-015-0
9731-0000-070

⚠注意

駆動しているベルトに接触しケガをするおそれがあります。エンジン運転中は、カバーを開けないでください。カバーは必ず取付けて使用ください。

3823-901-001-0
9731-0000-600

⚠注意

ケガをするおそれかありますので運転中は手を入れないでください。

3533-901-015-0
9731-0000-070

⚠注意

ケガをするおそれかあります。カバーを開ける時はエンジンを停止してください。

3103-905-029-0
4317-0000-060

⚠注意

ケガをするおそれかありますので運転中は手を入れないでください。

3533-901-015-0
9731-0000-070

⚠注意

ケガをするおそれかありますので運転中は手を入れないでください。

3533-901-015-0
9731-0000-070
(MH76のみ)

保証とサービスについて

■本商品の使用目的、使用範囲

この商品は稲・麦脱穀用ハーベスタです。

使用目的以外の作業および改造などは決しておこなわないでください。

使用目的以外の作業および改造をした場合は保証の対象になりませんのでご注意ください。

■商品の保証

この商品には、弊社保証書が添付されています。

詳しくは保証書をご覧ください。

■サービスネット

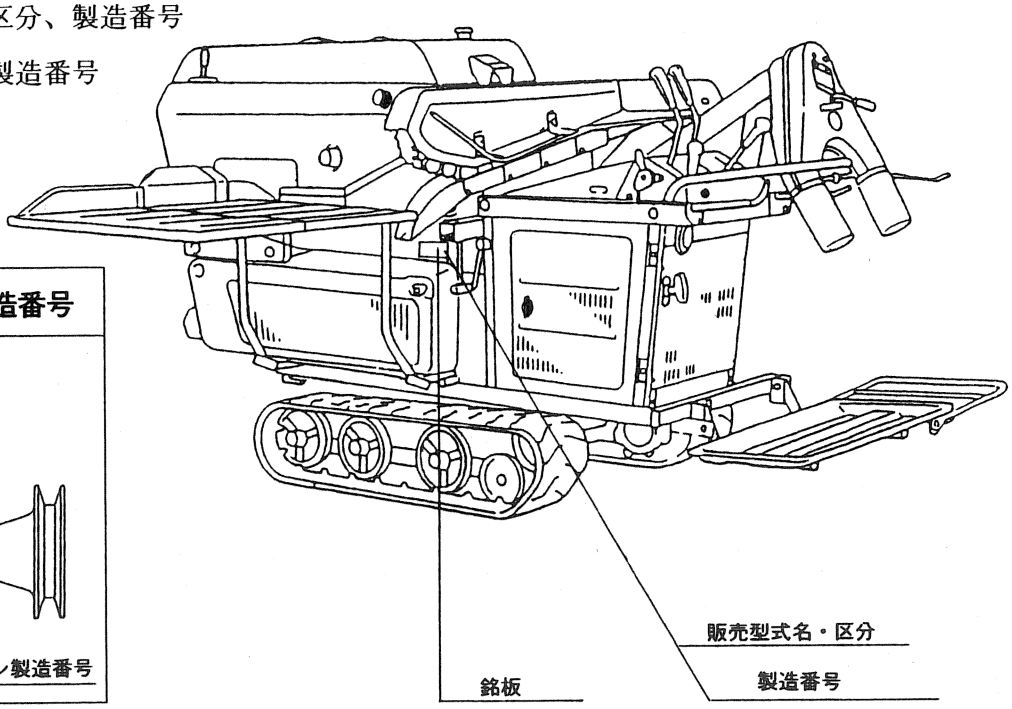
ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店・農協へお気軽にご相談ください。

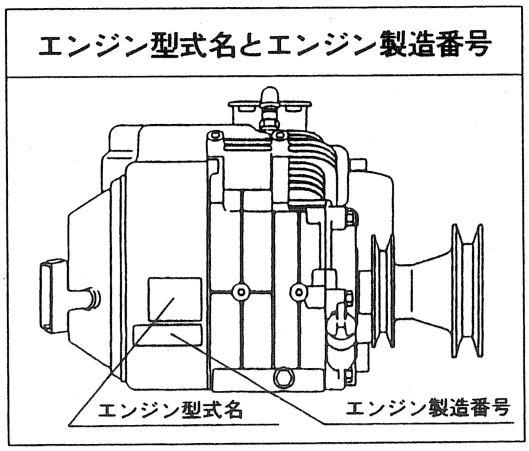
その際

(1) ハーベスタの販売型式名、区分、製造番号

(2) エンジン型式名とエンジン製造番号

を併せてご連絡ください。





■補修用部品供給年限について

この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後10年といたします。

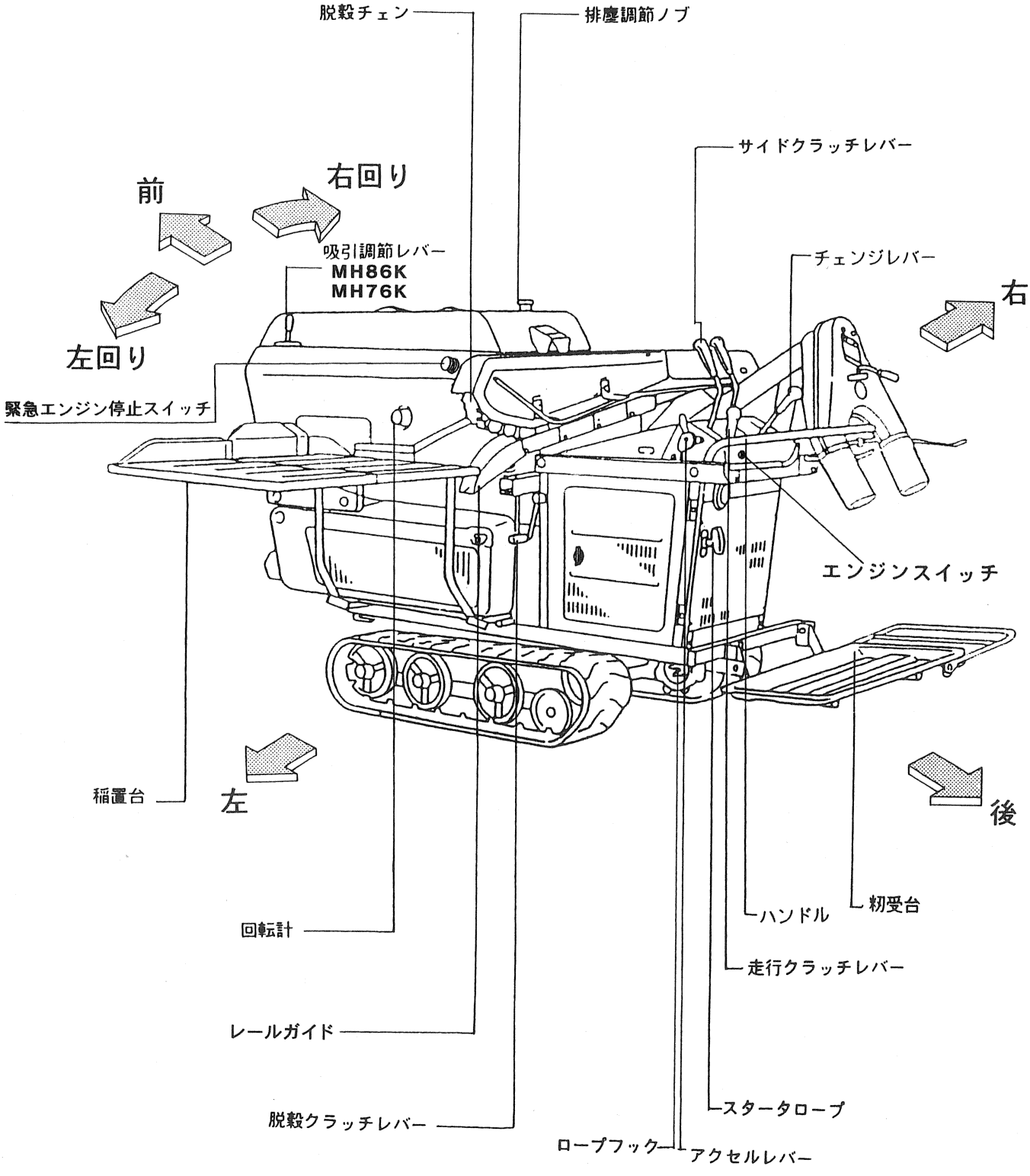
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

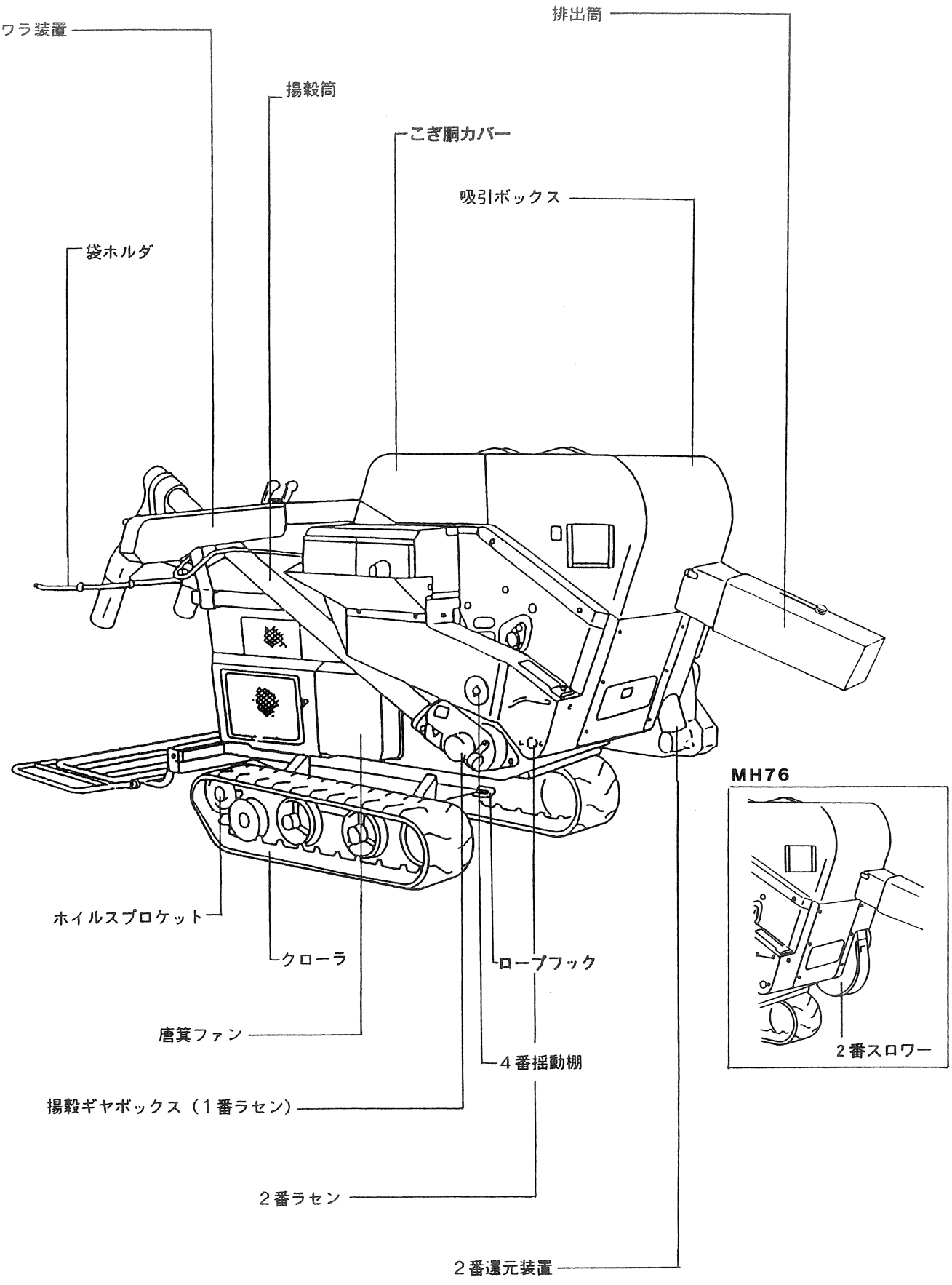
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただく場合もあります。

各部の名称と働き

各部の名称と機体方向

この取扱説明書で使用している「前後・左右・左回り・右回り」などの方向は図示の通りに決めています。

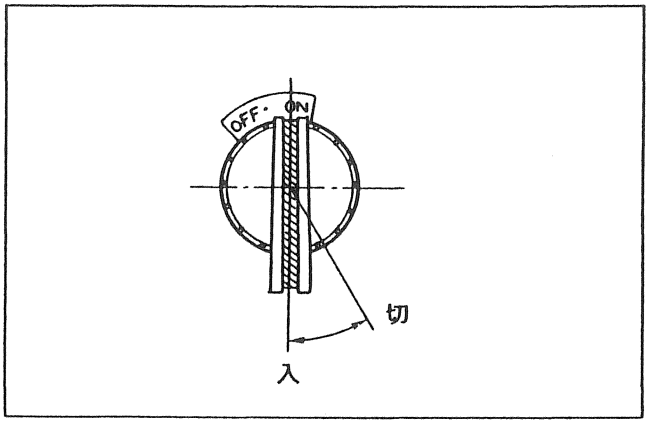



排ワラ装置
排出筒
揚穀筒
こぎ胴カバー
吸引ボックス
袋ホルダ
MH76
ホイルスプロケット
クローラ
ロープフック
唐箕ファン
4番揺動棚
揚穀ギヤボックス（1番ラセン）
2番ラセン
2番還元装置
2番スロワー

名称と働き

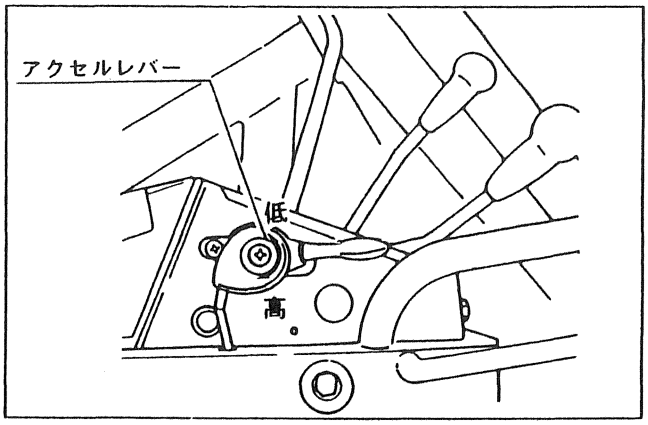
■エンジンスイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。
始動時に「入」
停止時は「切」
にします。



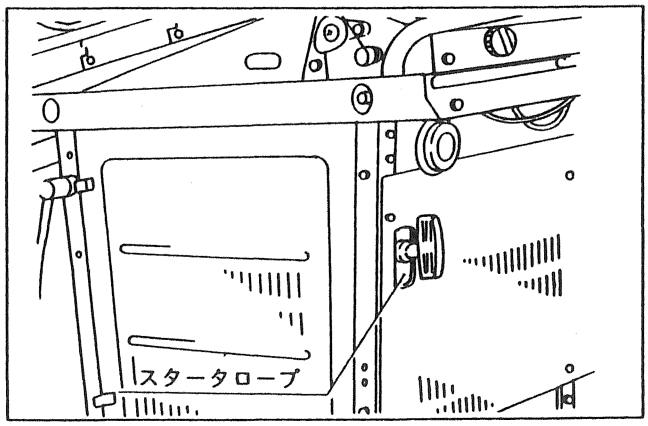
■アクセルレバー

エンジンの回転を調節します。「高」側にしますとエンジン回転が上がり、「低」側にしますとエンジン回転が下がります。



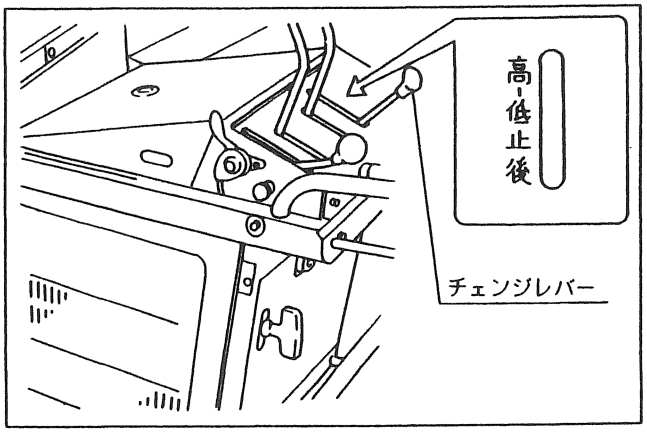
■スタータロープ

エンジンを始動する時使用します。



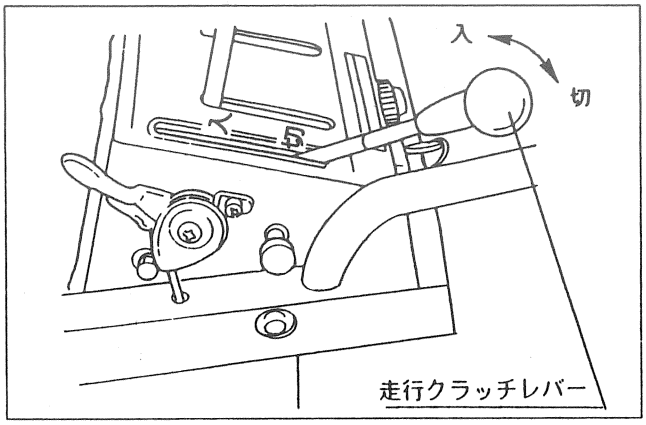
■チェンジレバー

前進２段・後進１段の変速をします。



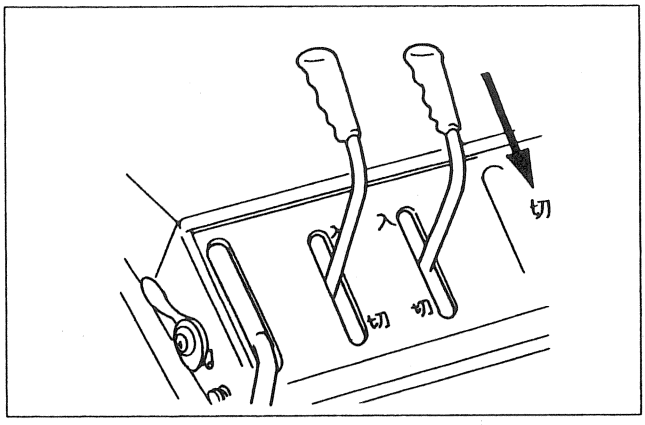
■走行クラッチレバー

エンジンの動力を走行部へ伝えます。「入」にしますと走行します。「切」にしますと停止し、駐車ブレーキが働きます。



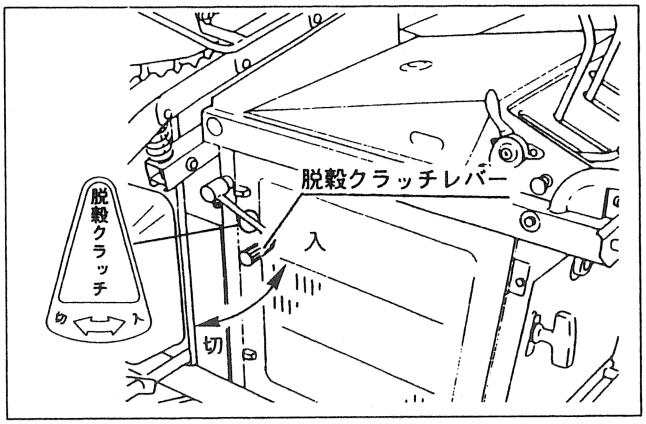
■サイドクラッチレバー

機体の進行方向を変えるとき操作します。機体はレバーを引いた方向へ曲ります。



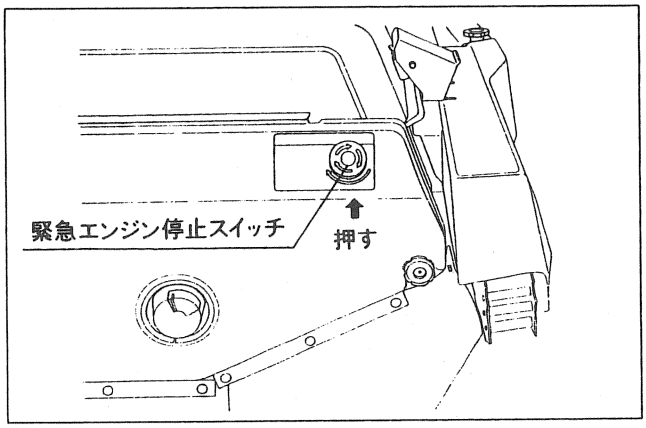
■脱穀クラッチレバー

エンジンの回転を脱穀機に伝えます。「入」で脱穀機が回転します。「切」で停止します。



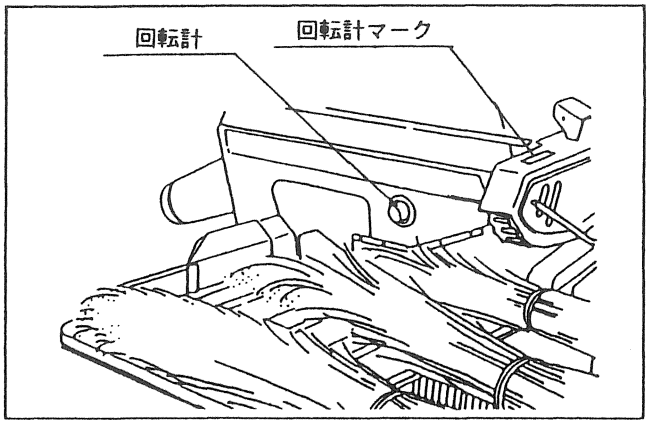
■緊急エンジン停止スイッチ

緊急エンジン停止スイッチを押すと、エンジンが停止します。脱穀作業中などに何らかのトラブルが発生した時にこのスイッチを押してください。
エンジンが停止します。
再始動する時は、スイッチを右に回し、解除してから行なってください。

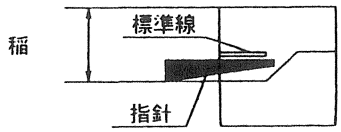


■回転計

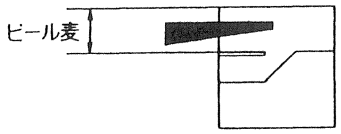
こぎ胴の回転数を合わせます。



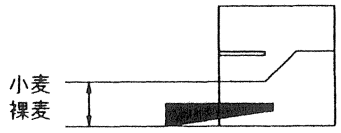
回転計表示の見方



矢印の中に指針がある時
稲回転表示です。
標準線と指針が一致する
時は稲標準回転表示です。



矢印の中に指針がある時
ビール麦回転表示です。

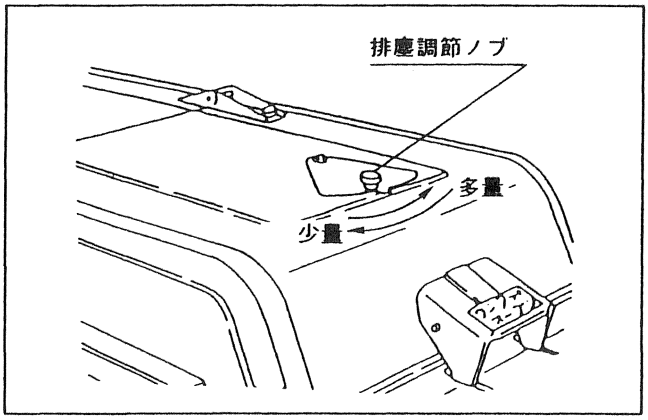


矢印の中に指針がある時
小麦・裸麦回転表示です。

■排塵調節ノブ

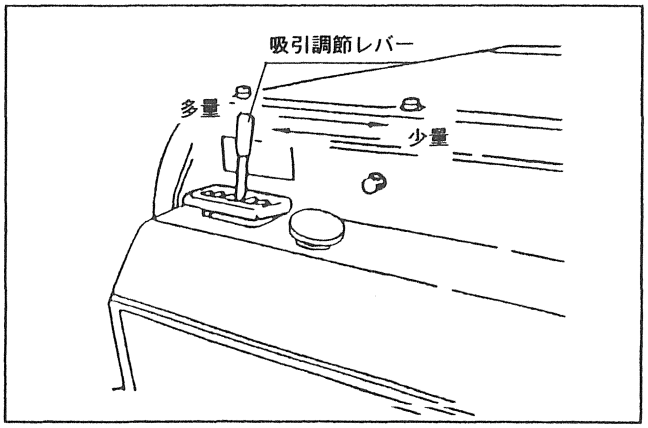
こぎ室から排塵出口へ送るワラ屑の量を調節します。

ノブを右方向に移動させると多量に、左方向に移動させると少量になります。



■吸引調節レバー　(MH86K, MH76K)

機外へ排出されるワラ屑の量を調節します。向って右方向に倒しますと少量になり、左方向に倒しますと多量になります。



毎作業前点検

危険

(1) 燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。
守らなかった場合、火災の原因になります。

(2) 給油、注油するときは、広くて平らな硬い場所で行なってください。

(3) 給油、注油および回転部の点検は必ずエンジンを停止しエンジンが冷えてから行なってください。

(4) 燃料、オイルがこぼれた場合はきれいにふき取ってください。

(5) エンジン周辺のメンテナンスは、エンジン回転の停止を確認した後、エンジンが冷えてから行なってください。エンジン周辺のワラ屑・ワラ束は火災の原因になります。作業前に取除いてください。

注意

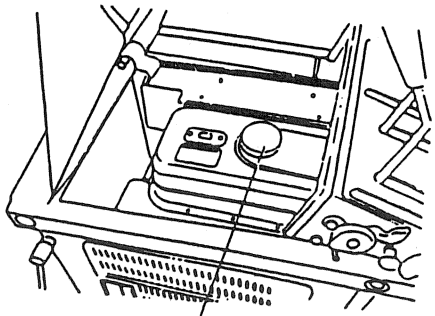
点検時にカバーを開けたり、取りはずしたりした場合は、必ず元に戻してから作業してください。

■各部の給油

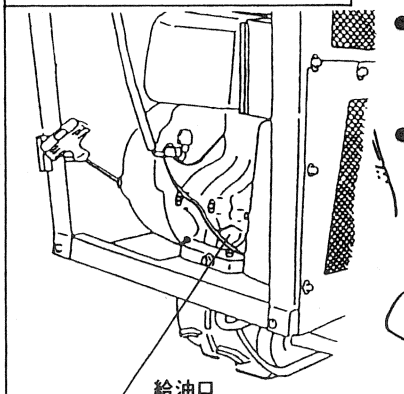
●油面計またはゲージで確認して、適正油量まで補給してください。

燃料タンク

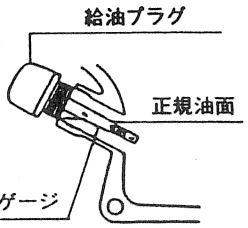
●油面計および給油口を見ながら入れ、こぼさないでください。



エンジンクランク室

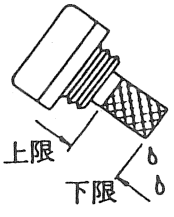


●正規油面をオイルゲージで確認してください。
●機体は水平状態で点検してください。

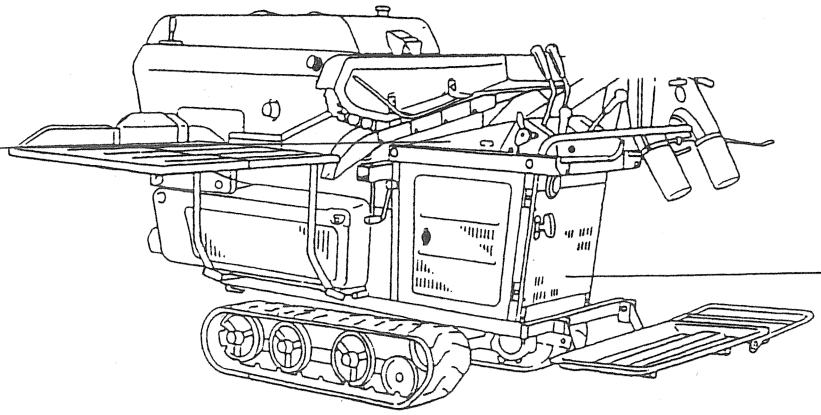


ガソリンエンジンオイル
10W-30（SF級以上）
0.6L（MH76K, MH76）
1.1L（MH86K）

●ゲージはネジ込まない状態で点検してください。

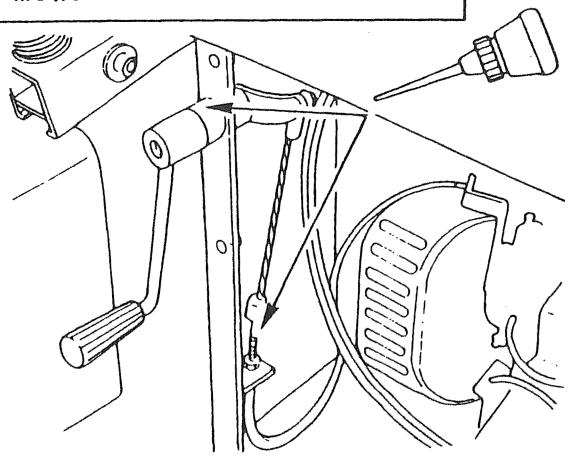


●上限に近い所まで補給してください。

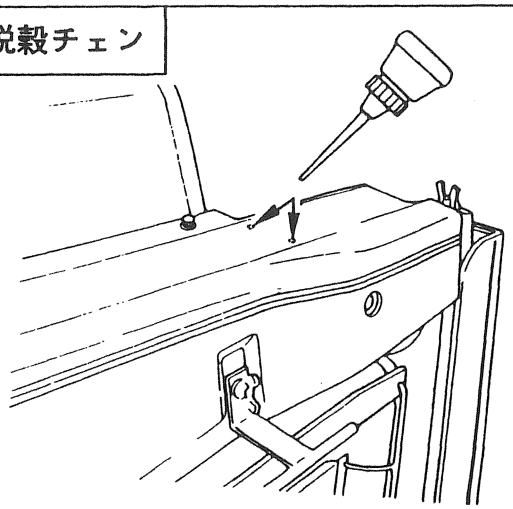


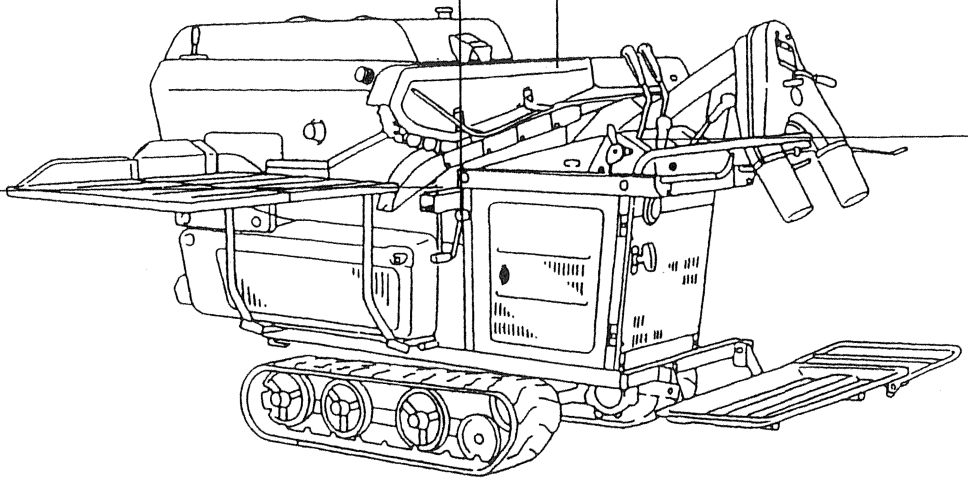
■各部の注油

脱穀クラッチレバー、ワイヤ

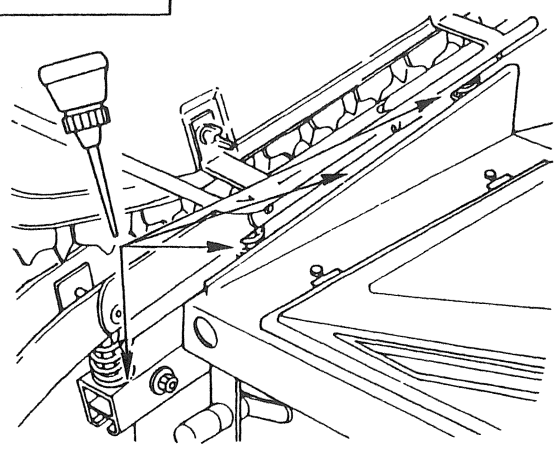


脱穀チェン

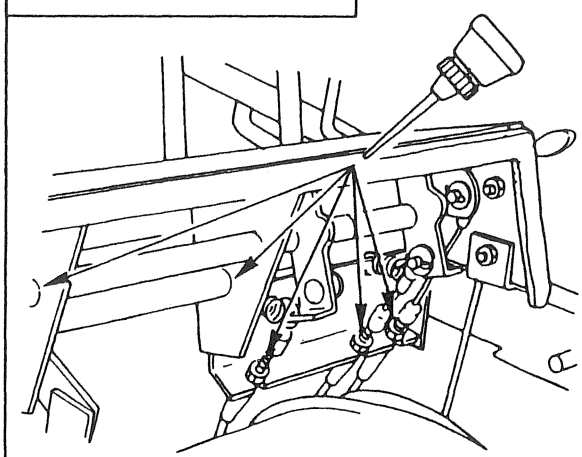




レールガイド

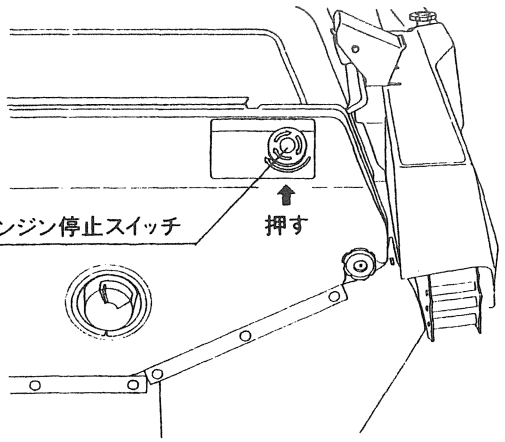


操作レバー、ワイヤ



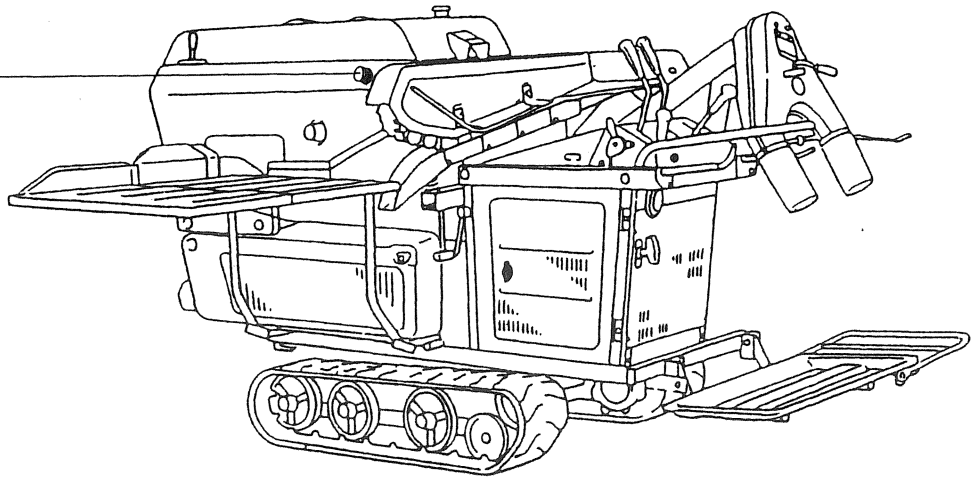
■緊急エンジン停止スイッチの作動確認

● エンジンを始動した状態で緊急エンジン停止スイッチを押し、エンジンが停止するか確認してください。



注意

緊急エンジン停止スイッチを押してもエンジンが停止しない場合は、お買い上げ先で点検整備を受けてください。



● その他の作業前点検については38ページの点検整備一覧表の毎日始業時の項目を参照してください。

運転のしかた

移動と運搬

■エンジン始動

警告

(1) 始動する前に安全カバー類が取付けてあるか確認してください。

(2) 室内でエンジンを始動するときは、窓を開けて換気を十分に行なってください。換気が悪いと排気ガス中毒を起こし大変危険です。

(3) 始動する前には各クラッチレバーを「切」に、また、チェンジレバーは「止」にしてください。

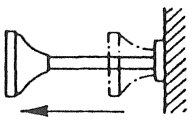
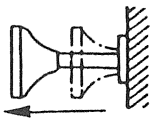
(4) エンジンを始動するときは、周囲の人に「声」をかけ合図してください。

(1) 走行クラッチレバー、脱穀クラッチレバーが「切」になっていることを確認します。

(2) チェンジレバーを「止」の位置に入れます。

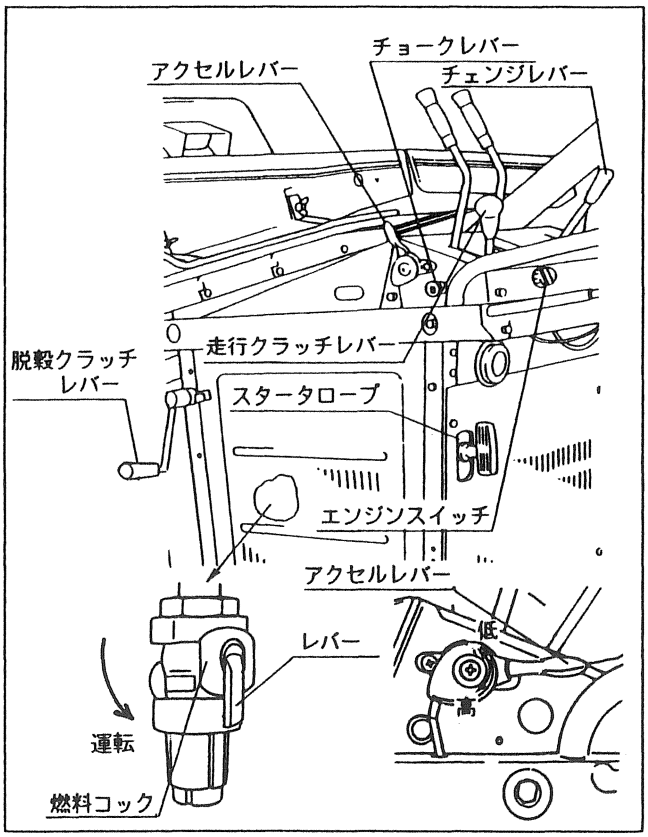
(3) 燃料コックのレバーを真下に向けて「運転」にします。

(4) エンジンスイッチを「入」にしチョークレバーを引き出します。

エンジンが冷えているとき	
エンジンが暖まっているとき	

(5) アクセルレバーを「低」と「高」の中間にします。

(6) スタータロープを軽く引きながら重さを感じるところで止め、一旦ロープを元に戻して、そこから一気に引っぱります。



重要

● エンジンを始動する前に、緊急エンジン停止スイッチが解除してあることを確認してください。

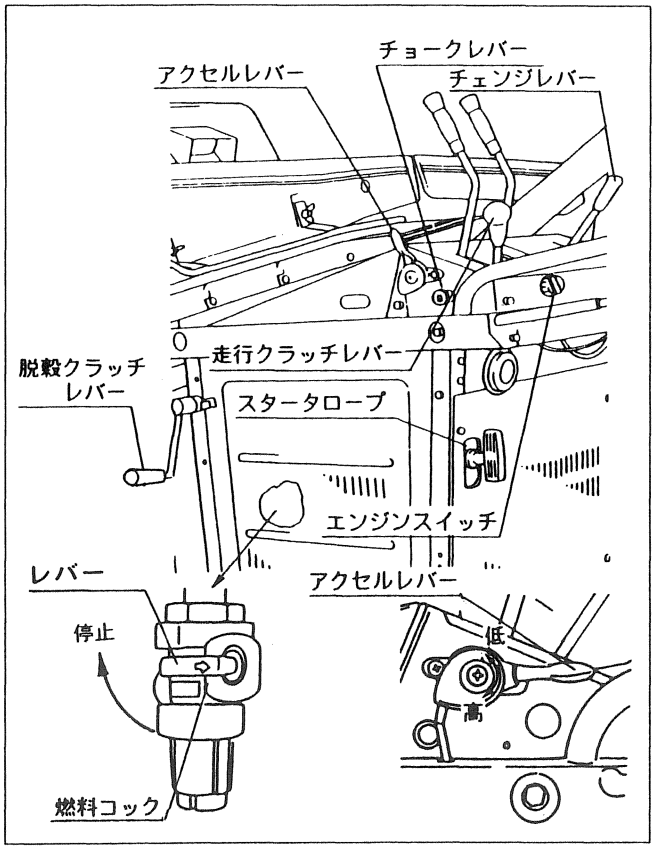
重要

- 3回以上引っぱっても始動しないときは、そのままチョークを引き続けると燃料の吸い込み過ぎとなりますので、チョークレバーは元へ戻し、アクセルレバーを多少「高」側にして始動してください。

重要

- 本機には安全装置（走行クラッチレバー、脱穀クラッチレバーが「切」の時にしかエンジンがかからない装置）が付いています。
- エンジンが始動したら約3分間アクセルレバー「低」で暖機運転をしてください。

■エンジン停止



(1) 走行クラッチレバー、脱穀クラッチレバーを「切」の位置にします。
(2) アクセルレバーを「低」の位置にします。
(3) エンジンスイッチを「切」にします。
(4) 燃料コックのレバーを真横に向けて「停止」にします。

重要

- エンジンを高速回転のまま停止しないでください。

■発進と運転のしかた

⚠ 警告

(1) 走行の直前には必ず機械の周囲に人がいないことを確かめ、「声」で合図してください。
(2) 急発進、急制動、急旋回は、危険ですからしないでください。
(3) 走行中の右折、左折、後進は、低速で行ってください。
(4) 籾受台や機体の上には、人、もみ、物等をのせないでください。
(5) 走行中はクラッチを正しく操作し、わき見運転を絶対にしないでください。
(6) 側溝のある道や両側が傾斜している道を走行するときは速度を落として十分注意して走行してください。
(7) ハーベスタを離れる時は、平らな場所に駐車し、走行クラッチレバーを「切」にして、エンジンを停止してください。
(8) 急な坂道での走行クラッチレバーの操作は危険ですから絶対にさけてください。
止むを得ず坂道で停止する場合には、走行クラッチレバーを「切」の位置に入れ、機体に歯止めを施してください。
駐車ブレーキは、走行クラッチレバーを「切」にすると連動してブレーキが作動します。
(9) 後進時には、後方の障害物との安全距離を確認してください。
怠ると、機械と障害物にはさまれ、大変危険です。

■発進のしかた

(1) 走行時は稲置台、排出筒、排ワラ装置、籾受台、袋ホルダーは格納状態（28ページ参照）にしてください。

(2) アクセルレバーを「低」にします。

(3) チェンジレバーを希望する速度に入れます。

前 進	高	移動
	低	移動（坂道、傾斜地、ほ場） トラック等への積込み、 あぜ越え
後 進	後	移動、 トラック等からの積降ろし

(4) 走行クラッチレバーをゆっくり「入」の位置に入れます。

■旋回のしかた

旋回したい方向のサイドクラッチレバーを引いて「切」にします。

レバーを引いた方向に曲ります。

■変速のしかた

(1) 走行クラッチレバーを「切」にします。

(2) チェンジレバーを希望する速度に入れます。

(3) アクセルレバーを「低」にします。

(4) 走行クラッチレバーをゆっくり「入」の位置に入れます。

■停止・駐車のしかた

(1) 走行クラッチレバー、脱穀クラッチレバーを「切」の位置にします。

(2) アクセルレバーを「低」の位置にします。

(3) エンジンスイッチを「切」にします。

(4) チェンジレバーを「低」または「後」に入れます。

(5) 燃料コックのレバーを真横に向けて「停止」にします。

(6) 駐車ブレーキは走行クラッチレバーを「切」にすると連動して駐車ブレーキが作動します。

(7) 坂道での駐車は極力さけてください。
やむなく坂道で駐車する場合は駐車ブレーキを働かせて、クローラに「歯止め」をしてください。

⚠ 警告

公道走行禁止

この機械は、公道を走行することはできません。移動するときは、トラック等で輸送してください。

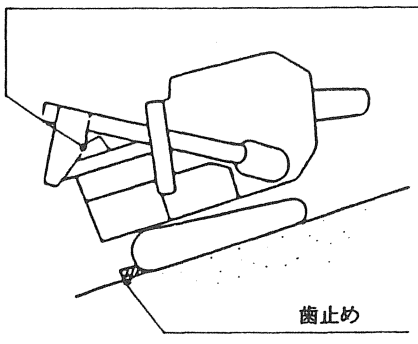
⚠ 注意

駐車ブレーキはいつも正常に作動するように点検、調整を行なってください。

走行クラッチレバーと長穴下部のスキマを2～7㎜にするよう、調整してください。

46ページブレーキワイヤの調整を参照してください。

走行クラッチレバーを「切」にすると駐車ブレーキが作動します。



■自動車等への積込み・積降ろしについて

警告

万一、下記の項目を守らないと転倒の恐れがあります。

(1) アユミ板は、基準以上のものを使用し、ハーベスタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。また、変形したアユミ板は使用しないでください。

(2) アユミ板のフックは荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

(3) アユミ板の上では、サイドクラッチレバーは操作しないでください。操作すると急に方向転換し落下する危険があります。

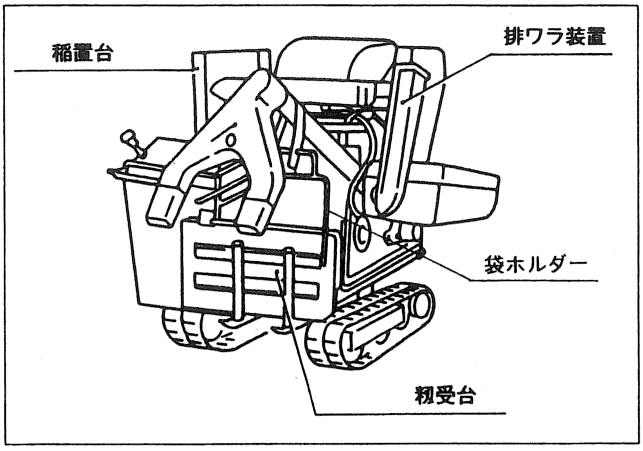
(4) 万一にそなえて、ハーベスタの周辺には、人を近づけないでください。

(5) アユミ板から荷台に移るとき、急に機体の角度が変わりますので、十分注意してください。

(6) 積み込むトラックは、エンジンを止め変速「P」または「1速」か「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めを行なってください。

(1) 周囲に危険のない平たんな場所を選んでください。

(2) 稲置台、排出筒、排ワラ装置、籾受台、袋ホルダーは格納状態にしてください。



(3) 基準に合った金属製アユミ板を確実にセットしてください。

(4) アユミの前でいったん停止し、左右のクローラがアユミ板と平行になるまでハーベスタの位置、向きを合わせてください。

〈アユミ板の基準〉

a) 長さ……車の荷台高さの4倍以上

b) 幅……30cm以上

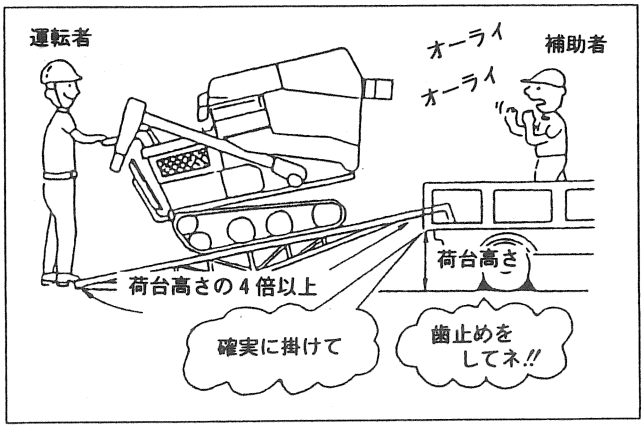
c) 強度……300kg以上(片側1枚)

d) 数量……2枚使用

e) すべらないよう処理してあること

f) 一方の端にトラックの荷台に引掛けるフックがあること

(5) 積込みの場合は「前進、低速」で、降ろす場合には「後進」で、アクセルレバーは極力「低速」にして行ないます。
運転者のほかに監視誘導する補助者を1名おき、慎重に行なってください。



■自動車等での運搬

(1) 走行クラッチレバーは確実に「切」の位置にします。

(2) クローラの前後に木片で歯止めを施します。

(3) 走行フレームのロープフック（４ヶ所）にロープを掛けて確実にしばります。

重要

● ロープは所定のロープフック以外には掛けないでください。機械の破損や故障の原因となります。

■ほ場への出入り

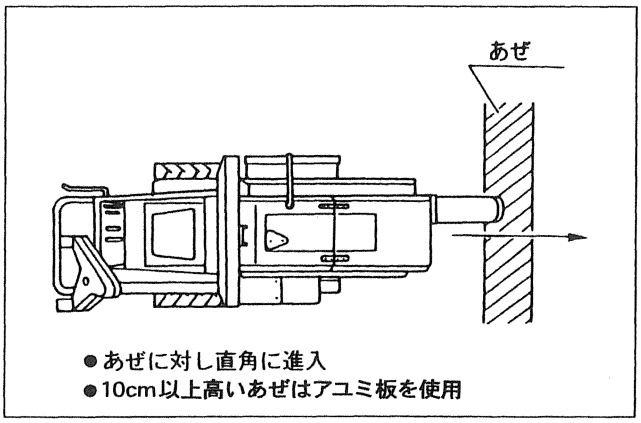
⚠ 警告

(1) あぜを横断するときは、低速にしてあぜと直角にゆっくりと走行してください。

(2) 10cm以上の高いあぜのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。

(3) あぜ越え、ほ場の出入りの途中ではサイドクラッチ操作は絶対に行なわないでください。転倒する恐れがあります。

(4) チェンジレバーは「前進」「低」で、アクセルレバーは、極力「低速」にして行ないます。

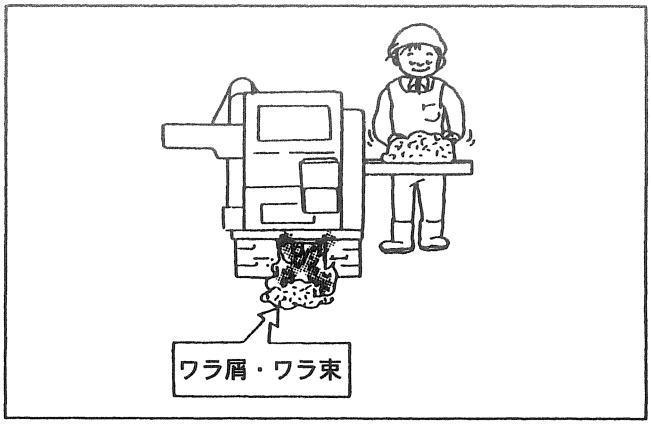


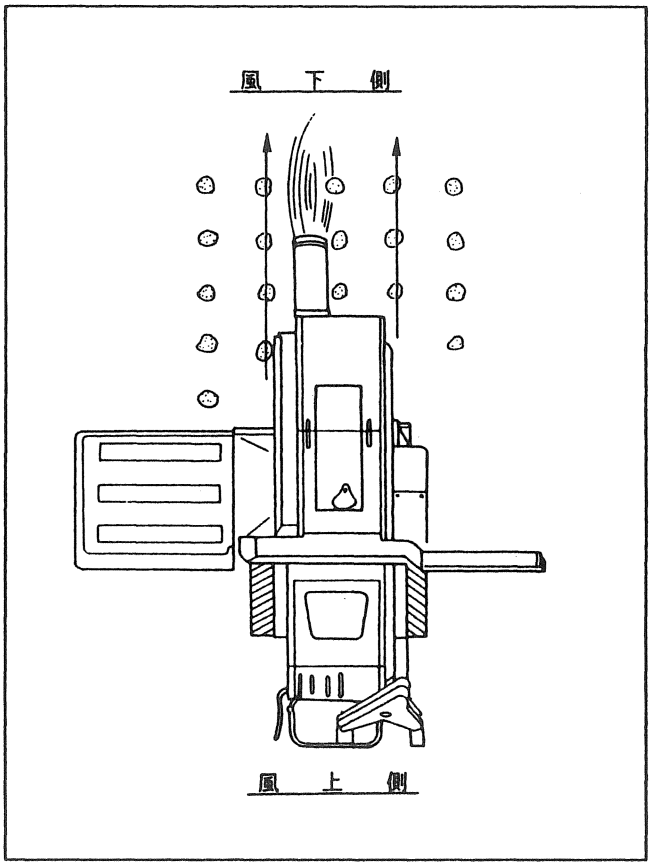
● あぜに対し直角に進入
● 10cm以上高いあぜはアユミ板を使用

ほ場内の移動

危険

本機の下部はマフラーの排熱で非常に高温となります。その為、ワラ屑・ワラ束上で連続作業を行なうと火災発生の恐れがあり大変危険ですので絶対に避けてください。特に前進移動で作業をする場合、本機の下部に排出筒からのワラ屑を溜めたまま進むことがありますので、移動後、確認をしてから作業をはじめてください。





(1) 風上を向いて作業をすると作業者や、補助者にほこりがかかります。
ほ場では排出筒が風下側を向くよう考慮しながら機体を移動します。

(2) 湿田では、なるべく刈株の跡をクローラが通るように走行すると、機体の沈下が少なくてすみます。

作業のしかた

快適作業のための作物とほ場

■作物の条件

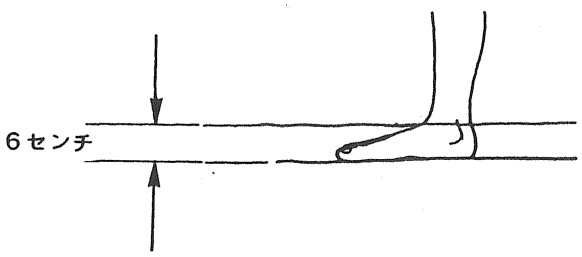
朝ツユや降雨によって作物がしめっている場合、あるいは作物の水分が極端に多い場合には脱穀性能を十分に発揮出来ないばかりでなく、詰まりや破損の原因ともなります。

作物は十分に乾燥させてから作業してください。



■ほ場の条件

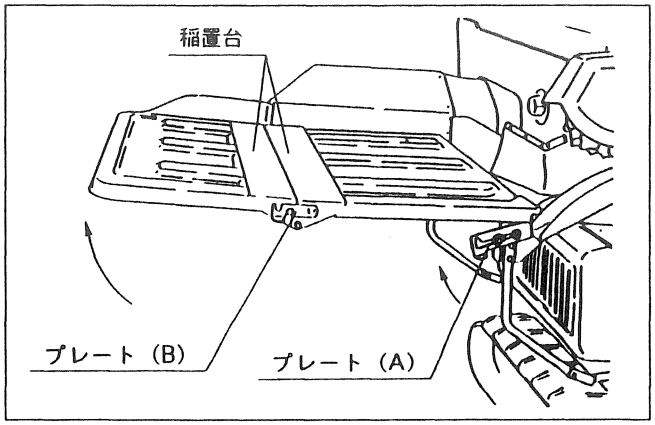
人の足で沈み量が6センチ以下の湿田であれば作業出来ます。



格納部品の取付けかた

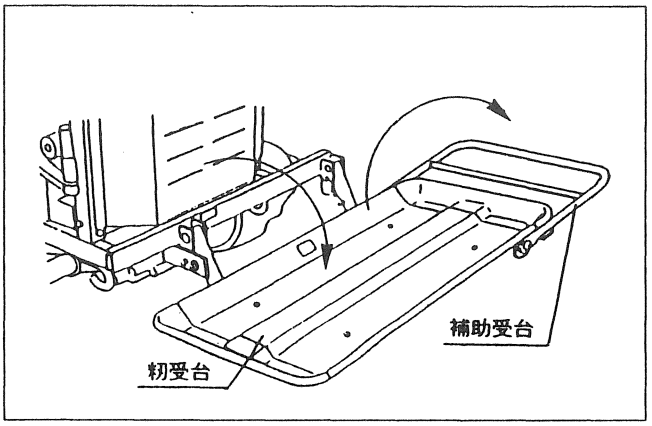
■稲　置　台

プレート(A)を引き稲置台を倒し、プレート(B)を回転させて、稲置台をセットします。



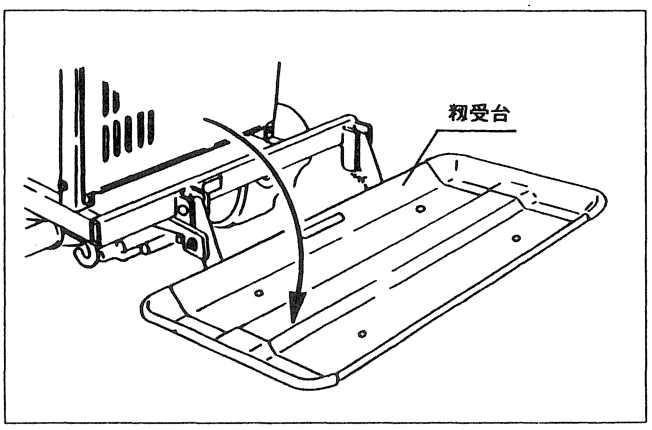
■籾　受　台（MH86K, MH76K）

籾受台を倒し、補助受台を開いてセットします。



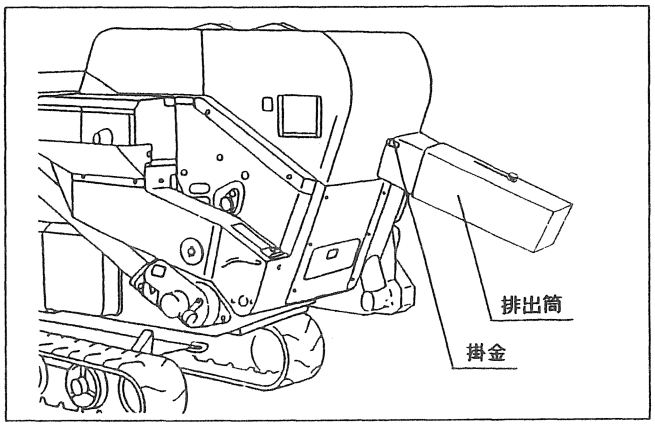
■籾　受　台（MH76）

籾受台を倒してセットします。



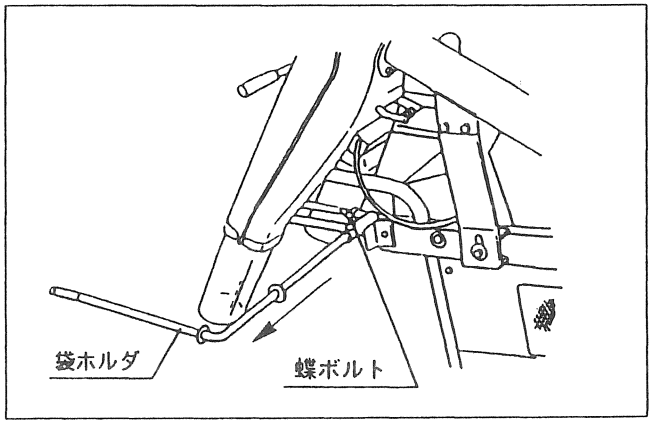
■排　出　筒

排出筒は吸引ボックス先端の掛金に取付けます。



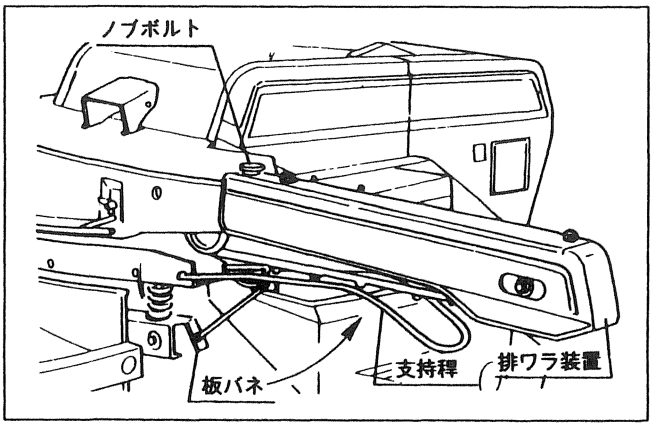
■袋ホルダー

袋ホルダーは蝶ボルトをゆるめて横へ引き出し、再び蝶ボルトで固定します。



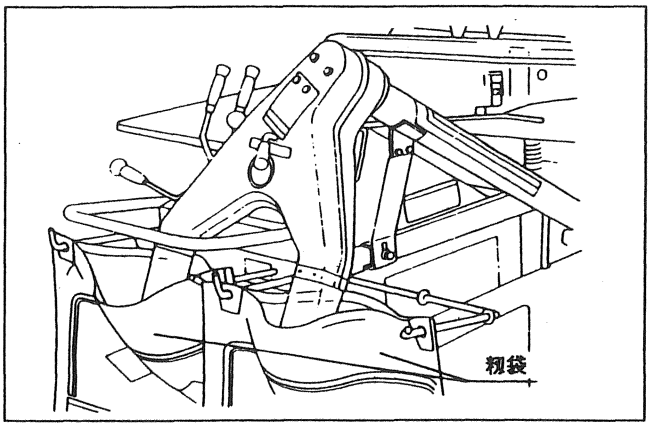
■排ワラ装置

ノブボルトで排ワラ装置を固定し、支持稈を起こして板バネの穴にセットします。



■籾　　袋

籾袋は左右それぞれ15枚程度ずつ取りつけます。



重要

- 格納時は、逆の手順で行ってください。

作業に適した調節のしかた

警告

回転部付近（レールベース、選別仕切板、排出筒、ワラ押え）の調節は必ずエンジンを停止し、エンジンやあらゆる部分の作動が停止したことを確認してから行なってください。

停止しないで調節すると衣服を巻き込まれたり、手をはさまれたりして大変危険です。

■レールベースの調節

バインダーの束の大きさに応じてレールガイドと脱穀チェンのスキマをセットボルトをゆるめて調節し、締付けます。

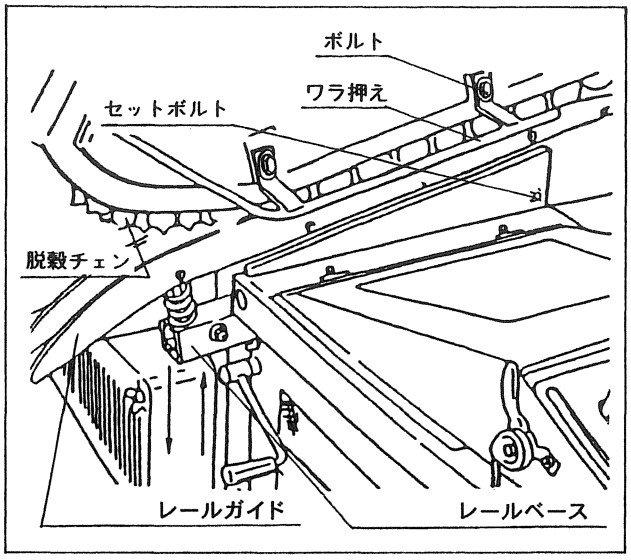
大　束　⇨　下げる

小　束　⇨　上げる

ワラ押えも束の大きさに応じて調節します。ボルトをゆるめ、ワラ押えを上げる、下げる調節後、ボルトを締付けます。

大　束　⇨　上げる

小　束　⇨　下げる



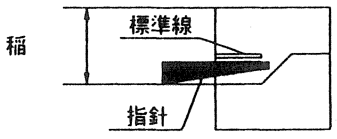
■回転計の調節

作物の種類に応じて右図の範囲で使用してください。更に作業の状況に応じて次の要領で回転数を調節します。

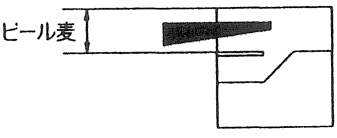
こぎ残りが発生する
能率を上げて作業したい　⇨高くする

損傷米が発生する
籾の飛散が多い　⇨低くする

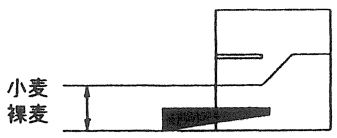
回転計表示の見方



矢印の中に指針がある時稲回転表示です。
標準線と指針が一致する時は稲標準回転表示です。



矢印の中に指針がある時ビール麦回転表示です。



矢印の中に指針がある時小麦・裸麦回転表示です。

重要

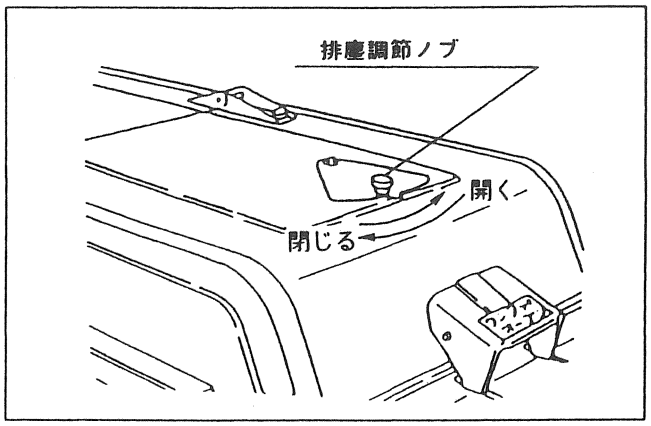
- **回転数の調節は作業状態で行なってください。規定回転がでていないと、こぎ残りが発生したり、能率低下にて脱穀部に詰まったりします。また回転が高すぎると損傷米が発生したり、籾の飛散が多くなります。作業具合に応じて、アクセルレバーで回転数を調節してください。**

■排塵量の調節

作物条件、作業状況に応じて、ワラ屑の排出速度を調節します。排塵調節ノブをゆるめ、「開く」または「閉じる」方向へ移動させた後、排塵調節ノブを締付けます。

こぎ室でゴトゴト音がする
エンジン回転がダウンする
能率を上げて作業したい
⇨ 開く

籾の飛散が多い
枝梗付の籾が発生する
⇨ 閉じる

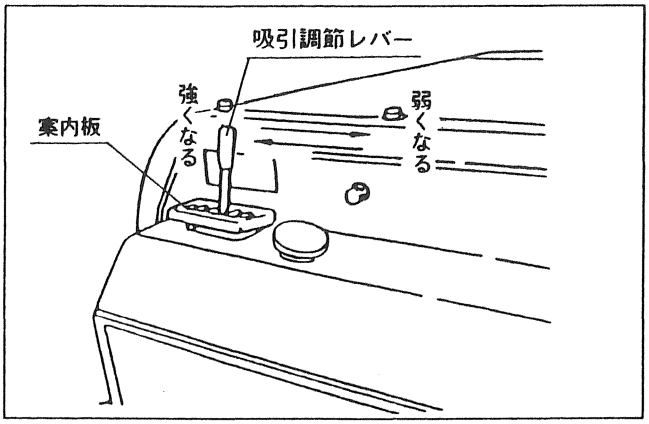


■吸引風量の調節（MH86K, MH76K）

作物条件、作業状況に応じて、吸引ファンの風力を調節します。脱穀機の運転中に、吸引調節レバーを手前に引き、吸引調節レバーを「強くなる」または「弱くなる」方向へ移動させた後、レバーを案内板の切込みに入れます。

吸引内部にワラが詰まる
選別が悪い
⇨ 強くする

籾の飛散が多い
損傷米が発生する
⇨ 弱くする



重要

- **レバーは必ず運転中に動かしてください。**

■吸引風量の調節（MH76）

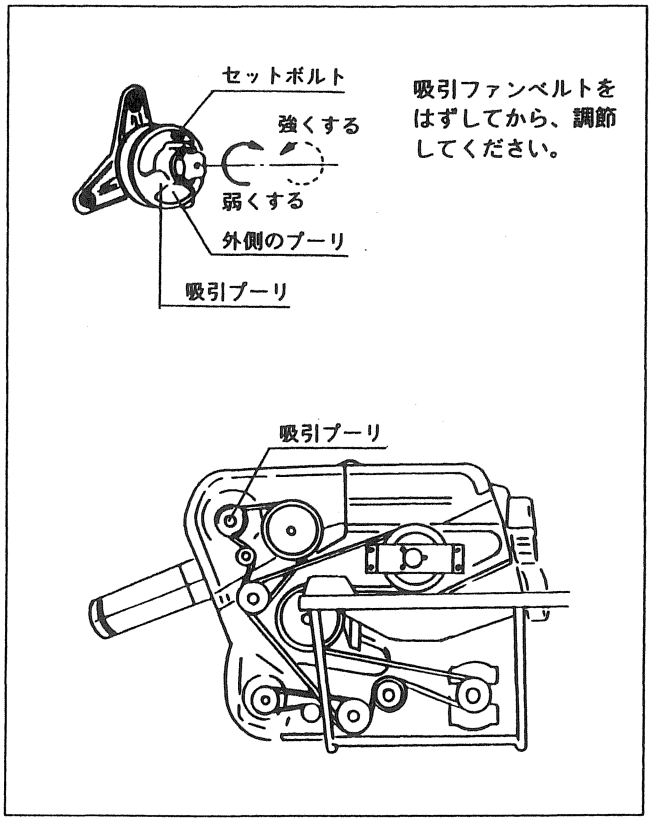
> **警告**
>
> **調節する時は、必ずエンジンを停止してください。停止しないで調節すると衣服を巻き込まれたり、手をはさまれたりして大変危険です。**

作物条件、作業状況に応じて、吸引ファンの風力を調節します。

吸引内部にワラ屑が詰まる
選別が悪い
⇨ 強くする

籾の飛散が多い
損傷米が発生する
⇨ 弱くする

風量の調節は、メインベルトカバーをはずして、割プーリになっている吸引プーリの調節で行います。右図のように外側のプーリのセットボルトをゆるめて外側のプーリを回すと調節できます。



風量は外側のプーリを

右方向に回すと弱くなります。

左方向に回すと強くなります。

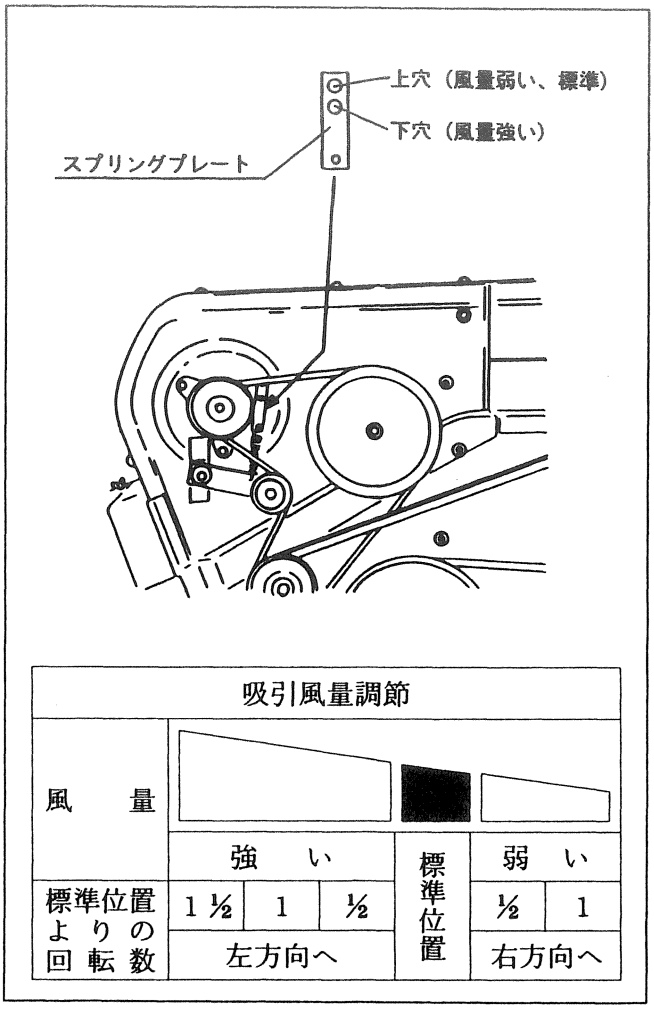
セットボルトの固定位置は¼回転ごとに止め位置があります。

標準位置より風量を強くする場合はスプリングプレートの取付け穴は下穴を使用してください。

なお、出荷時セットしてある位置が標準位置です。

標準位置とは、外側プーリを一杯に右方向へ回した状態から、左方向へ2回転もどした位置です。

調節終了後、メインベルトカバーを取り付けます。

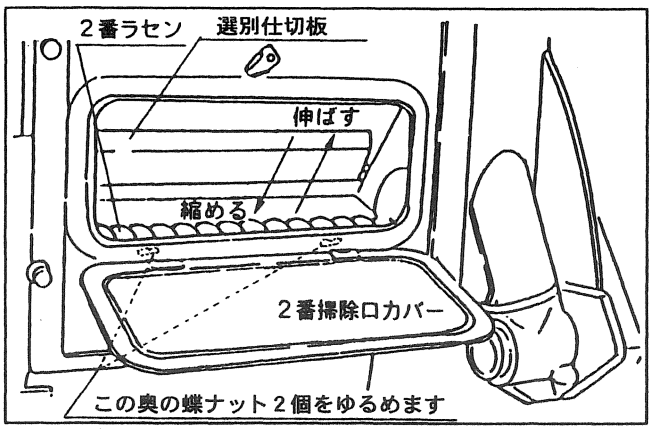


吸引風量調節						
風　量						
	強　い			標準位置	弱　い	
標準位置より回転数	1½	1	½		½	1
	左方向へ				右方向へ	

> **警告**
>
> **調節が終ったら、安全カバーを必ず元のとおりに取付けてください。外したままエンジンをかけると、回転部がむき出しになり、傷害事故の原因になり大変危険です。**

■選別仕切板の調節

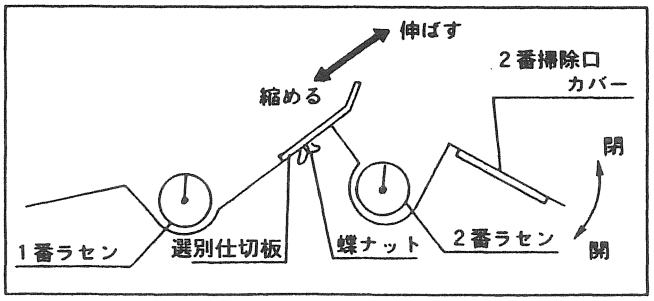
> **警告**
>
> **調節する時は、必ずエンジンを停止してください。停止しないで調節すると衣服を巻き込まれたり、手をはさまれたりして大変危険です。**



作物条件、作業状況に応じて、1番選別仕切板長さを調節します。2番掃除口カバーを開けます。選別仕切板の蝶ナット(2個)をゆるめ、選別仕切板を「伸ばす」または「縮める」方向へ移動させた後、蝶ナットを締付けます。2番掃除口カバーを閉じます。

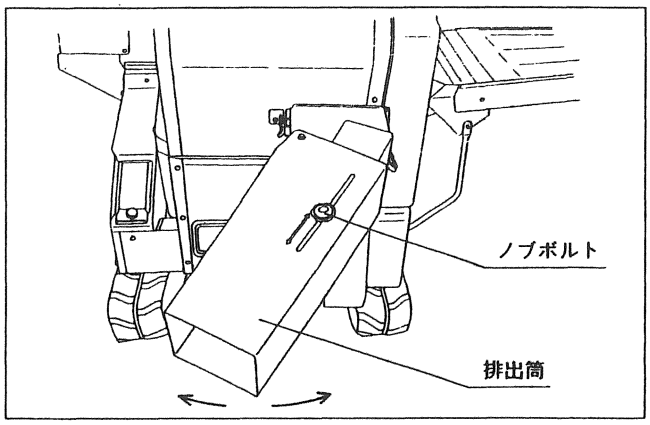
損傷米が発生する　⇨ 伸ばす

選別が悪い
枝梗付の籾が発生する　⇨ 縮める



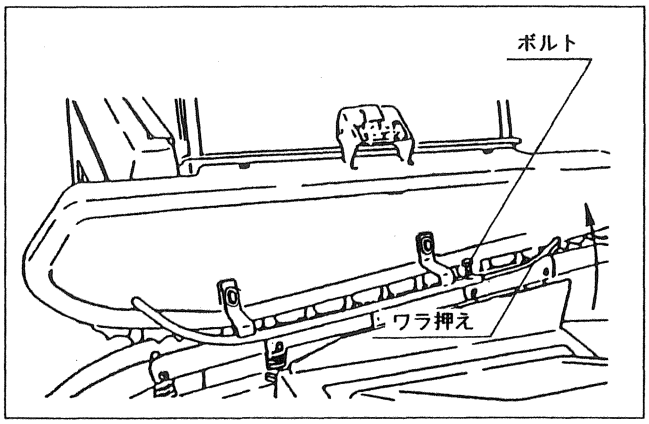
■排出筒の方向調節

排出筒のノブボルトをゆるめ、風向きに応じて排出方向を調節します。排出筒を上下反転させることにより、最大60度の方向調節が可能です。



■ノッタ使用時のワラ押えの調節

ノッタを使用する場合は、ボルトをゆるめ、ワラ押えの端を図のように上向きにして、再度固定してください。



脱穀作業のしかた

警告

(1) ハーベスタ作業をする時は、周囲の安全に十分注意をはらい、特に子供は近づけないでください。

(2) 後進する時は、後方安全確認をし、低速で後進してください。

(3) エンジン回転中は、回転部に手や身体を絶対に近づけないでください。

(4) 異常が発生したときは、直ちにエンジンを止めて、エンジンや作動部が停止したことを確認してから点検してください。

(5) ワラ屑を取り除くときは、必ずエンジンを止めて、エンジンや作動部が停止したことを確認してから取り除いてください。

(6) 二人以上の共同作業では、合図をし、補助者の安全を確認しながら、運転してください。

(7) 回転部に巻き込まれないよう、作業に適した服を着用し作業してください。(1ページ参照)

(8) 安全カバーを取外しての作業は絶対にしないでください。

(9) 手や体は、必ず脱穀チェンより外側（機体から離れる側）の位置にして脱穀チェンに触れないようにしてください。

危険

●本機の下部はマフラーの排熱で非常に高温となります。

ワラ屑･ワラ束上で作業を行うと火災発生の原因となりますので､絶対に避けてください。

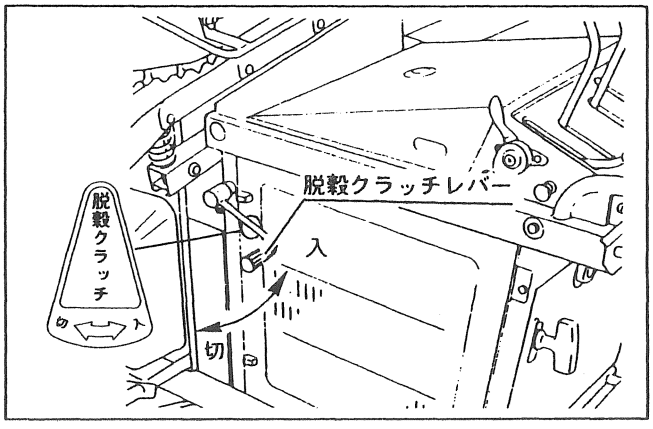
■脱穀部の運転

(1) エンジンを始動します。

(2) 脱穀クラッチレバーを「入」にします。

注意

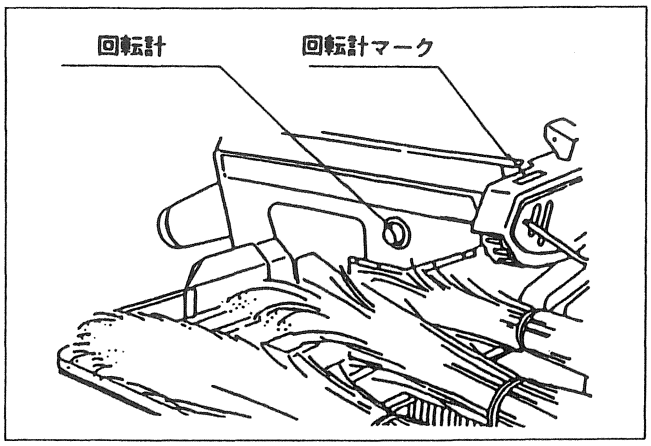
脱穀クラッチレバーを「入」にする前には必ず声で合図してください。



(3) 回転計を見ながら、所定の位置に指針がくるようアクセルレバーを調整します。

■稲束の供給

作物の穂の先端が稲置台の壁に触れない程度のこぎ深さで、１束ずつ穂先側を広げて供給します。



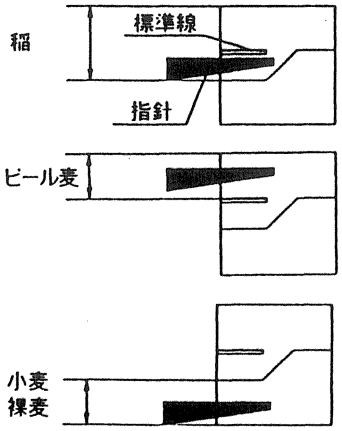
重要

- **束の供給は常に正しく行なってください。無理な供給をするとワラ屑が多く発生し、馬力損失や籾飛散の原因となります。**

■回転計の調節

稲束を供給しながら、この状態で回転計マークに記載されている所定の回転数が保たれるようアクセルレバーで再度調整します。

回転計表示の見方



矢印の中に指針がある時稲回転表示です。
標準線と指針が一致する時は稲標準回転表示です。

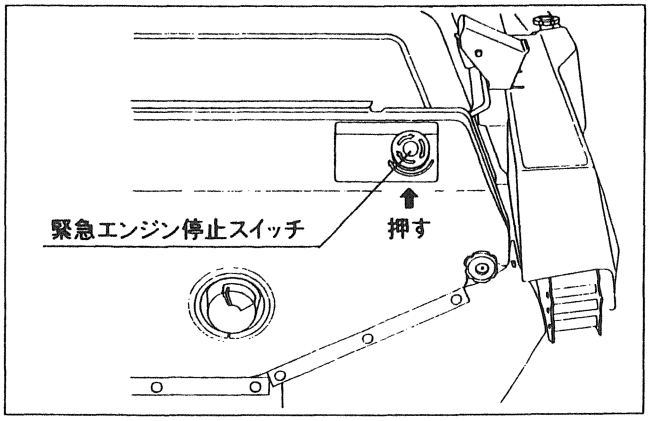
矢印の中に指針がある時ビール麦回転表示です。

矢印の中に指針がある時小麦・裸麦回転表示です。

■脱穀部の緊急停止

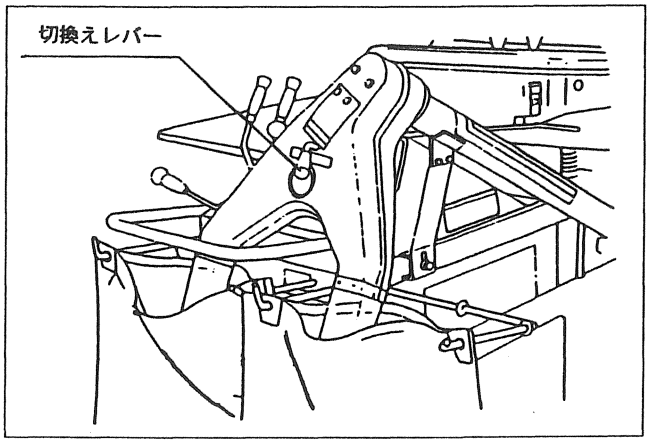
脱穀作業中に何らかのトラブルが発生し、脱穀部を止める必要がある場合は緊急エンジン停止スイッチを押してください。エンジンが停止し、脱穀部が止まります。

再始動する時は、スイッチを右に回し、解除してから行なってください。



■籾袋の交換

籾袋が満杯になると警告ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったら直ちに切換えレバーを切換えて籾袋を交換してください。籾袋は左右片方ずつ交互に交換しながら使用します。



重要

- **左右の籾袋が満量の状態で作業しますと、脱穀部内部に籾が詰ります。**
  機体破損の原因となります。必ず片方ずつ交互に交換してください。

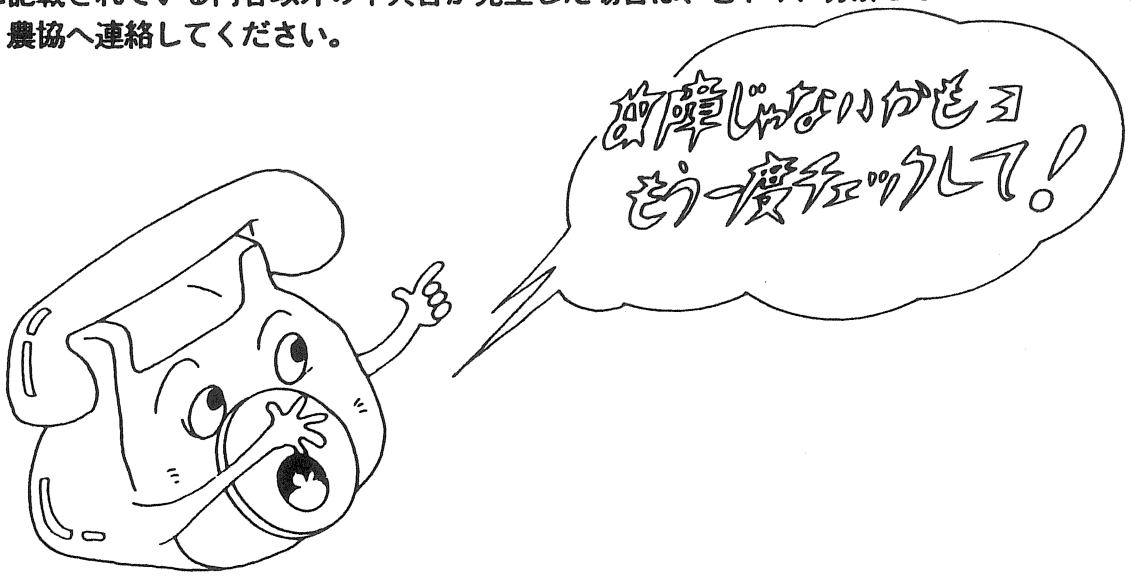
不調時の対応のしかた

こんな時には	ここを点検して	こうしてください
(1) エンジンがかからない	始動手順は間違っていませんか？	正しい手順で始動してください。 →21ページ
	燃料がなくなっていませんか？	燃料を補給してください。 →18ページ
	点火プラグが悪くなっていませんか？	点火プラグを掃除し、スキマを調整してください。 →52ページ
	走行クラッチレバー又は、脱穀クラッチレバーが「入」位置になっていませんか？	走行クラッチレバー及び、脱穀クラッチレバーを「切」位置にしてください。 →21ページ
	緊急エンジン停止スイッチが押されていませんか？	緊急エンジン停止スイッチを右に回し、解除してください。 →16ページ
(2) エンジンの力がない	こぎ室でゴトゴト音がしませんか？	次ページのゴトゴト音の項を読んでください。 →37ページ
	吸引ボックス内に詰まっていませんか?	エンジンを止めて掃除をしてください。 →44,45ページ
	エアクリーナのエレメントが目詰まりしていませんか？	エレメントを掃除してください。 →41ページ
(3) 選別が悪い	吸引ボックス内に詰まっていませんか?	エンジンを止めて掃除をしてください。 →44,45ページ
	吸引の風量調節が「弱」すぎていませんか？	吸引風量調節を「強」側へ動かしてください。 →31,32ページ
	回転計の設定が「低」すぎていませんか？	アクセルレバーで回転を上げてください。 →30ページ
(4) 籾の飛散が多い	回転計の設定が「高」すぎていませんか？	アクセルレバーで回転を下げてください。 →30ページ
	排塵量調節が「開」すぎていませんか?	排塵量調節を「閉」側へ動かしてください。 →31ページ
	吸引の風量調節が「強」すぎていませんか？	吸引の風量調節を「弱」側へ動かしてください。 →31,32ページ

こんな時には	ここを点検して	こうしてください
(5) こぎ残りが多い	回転計の設定が「低」すぎていませんか？	アクセルレバーで回転を上げてください。 →30ページ
	受網とこぎ歯のスキマが広すぎませんか？	受網のセットボルトをゆるめて、こぎ歯に近づけてください →51ページ
	こぎ深さが浅すぎませんか？	適正なこぎ深さで作業してください。 →35ページ
(6) こぎ室内でゴトゴト音がする	作物はしめっていませんか？	十分乾燥させてから作業を行なってください。 →27ページ
	稲束の供給が多すぎませんか？	一束ずつ穂先を広げて、ていねいに供給してください。 →35ページ
	こぎ深さが深すぎませんか？	こぎ残りが出ない程度に浅こぎしてください。 →35ページ
	排塵調節が「閉」すぎていませんか？	排塵量調節を「開」側に動かしてください。 →31ページ
	レールベースが下がりすぎていませんか？	ワラの引き抜かれが発生しないようにレールベースを上げてください。 →30ページ

重要

●ここに記載されている内容以外の不具合が発生した場合は、むやみに分解しないでただちに販売店・農協へ連絡してください。



点　検　整　備

・正常な機能を発揮するよう、安全に作業できるように、下の表を参考に、点検整備してください。
・なお下表の点検、整備間隔や時間については目安であり記載時期以外でも必要に応じ実施してください。

点検整備一覧表

○点検、調整、補充　△清掃、洗浄　●交換

区分		点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔					参照ページ
				シーズン前	毎日始業時	50時間ごと	100時間ごと	格納時	
エンジン	1	エンジンオイルの油量	点検、補充、交換	○	○	● 初回のみ20時間			18,39
	2	エアクリーナおよびエアクリーナエレメント	点検、洗浄	○		エレメント△			41,43
	3	点火プラグの汚損・間隙	点検、清掃	○△			●		52
	4	燃料コック	点検、清掃					○△	42,53
	5	燃料ホースの劣化ともれ	点検、交換	○			● 2年ごと		—
	6	燃料タンク、気化器の燃料	抜取					○	53
	7	マフラー部、リコイル部、カバー、金網部	清掃	△	△			△	—
電装部	8	配線接続部の外れ、損傷	点検	○					—
	9	緊急エンジン停止スイッチ	点検		○				20
走行部	10	クローラの伸び	点検、調整	○	○			○	50
	11	走行ミッションオイルの油量	点検、補充、交換	○		● 初回のみ	●	○	40
	12	サイドクラッチワイヤ(右・左)	点検、調整		○			○	46
	13	走行駆動ベルト	点検、調整		○			○	47,57
	14	駐車ブレーキワイヤ	点検、調整		○			○	46
脱穀部	15	2番ベルト、吸引ファンベルト	点検、調整	○				○	48,57
	16	脱穀メインベルト	点検、調整	○				○	48,57
	17	脱穀駆動ベルト	点検、調整	○				○	46,57
	18	排ワラベルト	点検、調整		○			○	48,57
	19	脱穀チェン	点検、注油、調整		○		○	○	49
	20	ワラ切り刃	点検	○				○	51
	21	こぎ歯	点検、増締め	○				○	—
	22	脱穀ギヤーボックスオイルの油量	点検、補充	○			●	○	40
	23	揚穀筒、揚穀ギヤーボックス	点検、清掃	○△				△	44,45
	24	ラセン底板	点検、清掃	○△				△	44,45

⚠ 警告

(1) 各部の点検と調整をするときは、必ずエンジンを止めてエンジンおよび作動部、回転部が停止したことを確認してから行なってください。また、不明な点や、異常を感じた場合はすみやかにお買い上げ先に相談してください。
(2) エンジン周辺の作業をする時は、エンジンが冷えてから行なってください。
(3) 点検整備をするときは、広くて平らな硬い場所で行なってください。
(4) 室内でエンジンをかける場合は、窓を開けて換気を十分にして行なってください。
(5) 点検整備で取外した安全カバー類は必ず元のとおりに取付けてください。
エンジン始動するときも、安全カバー類が取付けてあるか確認してから行なってください。

■使用者が行なってはいけない修理

下記部分に異常があるときは、お買上げの農協や販売店の修理工場に依頼してください。

(1) エンジン本体　(2) トランスミッションケース　(3) 脱穀ギヤーボックス
(4) 揚穀ギヤーボックス　(5) クローラ　(6) 電気部品　(7) 脱穀機内部

■使用済の資材の処分について

機械の廃油や、プラスチック類などの廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。
機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。地面へのたれ流しや川、沼への廃棄は絶対にしないでください。
廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは、販売店・農協に相談するか、または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
使用済の資材の処分については、その時の法令に従って処理してください。

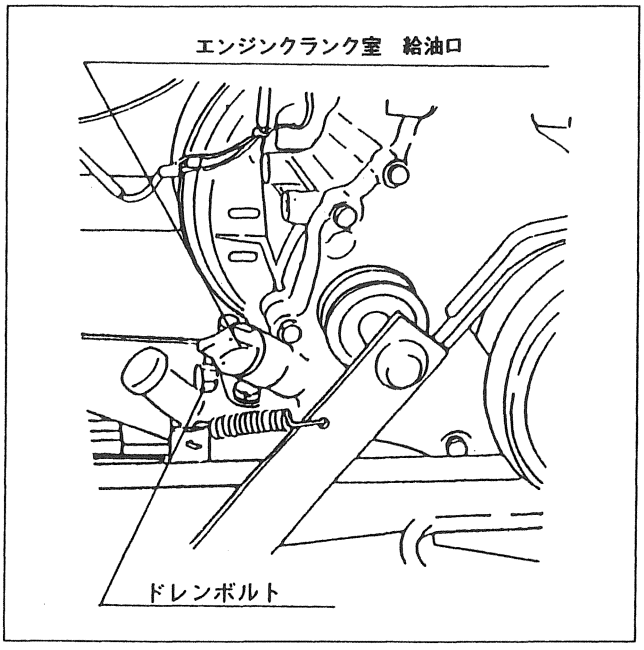
オイル類の点検整備

■エンジンオイルの交換

(1) エンジンルームのカバー（後）をはずします。
(2) ドレンボルトをはずして汚れたオイルを容器に抜き取ります。
(3) 再びドレンボルトを取付けて、給油口からエンジンオイルを注入します。

推奨オイル	交換時間	油　量
ガソリンエンジンオイル 10W-30 (SF級以上)	第1回目は20時間後 第2回目以降は50時間毎	MH76K MH76 0.6L MH86K 1.1L

(4) エンジンルームのカバー（後）を取り付けます。



重要

●エンジンオイルは、ガソリンエンジンオイル10W-30(SF級以上)を必ず使用してください。

■走行ミッションオイルの交換

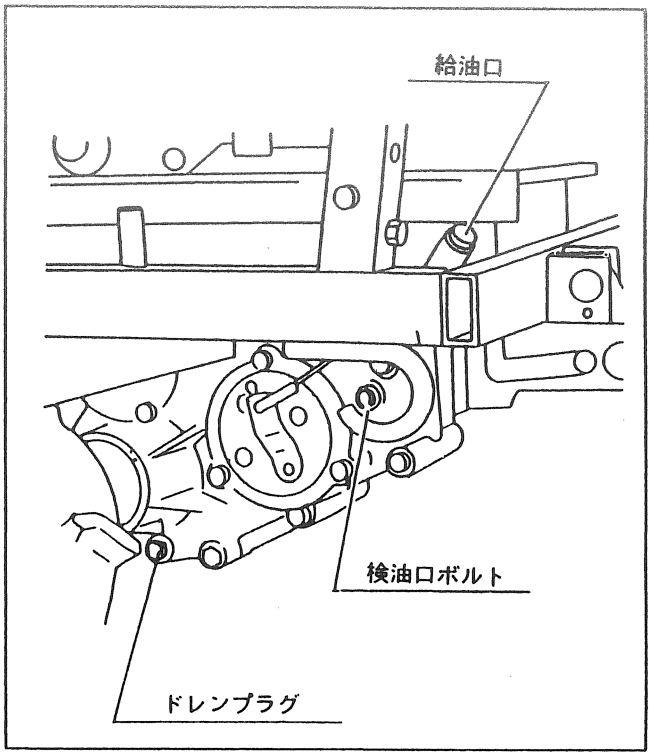
(1) ドレンプラグをはずして汚れたオイルを容器に抜き取ります。

(2) 再びドレンボルトを取り付けて、給油口からギヤーオイルを注入します。

(3) 検油口のボルトをはずして、ここからオイルが流れ出すまで給油します。

推奨オイル	交換時間	油量
ギヤオイル SAE90 GL-5以上	第1回目は 50時間 第2回以降 は100時間毎	1.6L

(4) 検油口のボルトを取り付けます。



■脱穀ギヤーオイルの交換

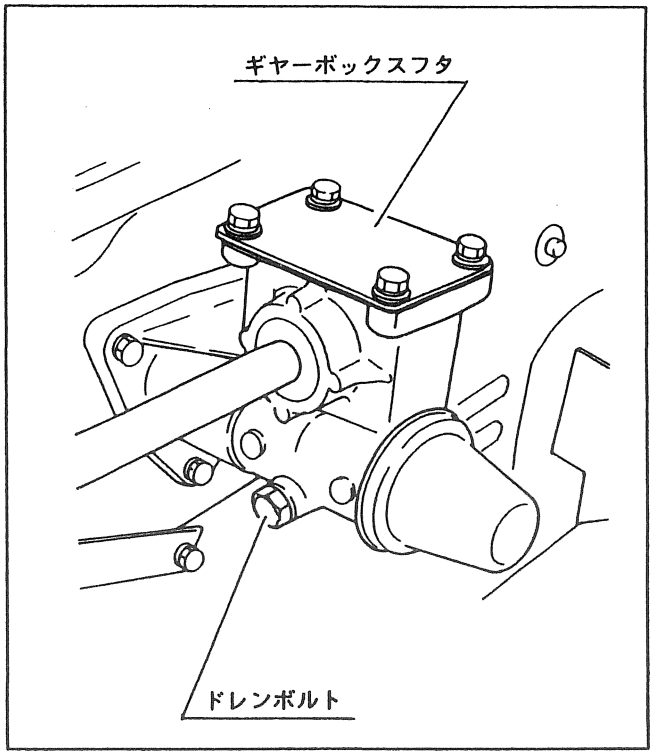
(1) こぎ胴出口部のウエカバーをはずします。

(2) ギヤーボックスのフタをはずし、ドレンボルトをはずして、汚れたオイルを容器に抜き取ります。

(3) 再びドレンボルトを取り付けて、ギヤーオイルを規定量注入します。

推奨オイル	交換時間	油量
ギヤオイル SAE90 GL-5以上	100時間毎	80cc

(4) ギヤーボックスのフタとウエカバーを取り付けます。



防塵装置の点検整備

■エアークリーナの掃除

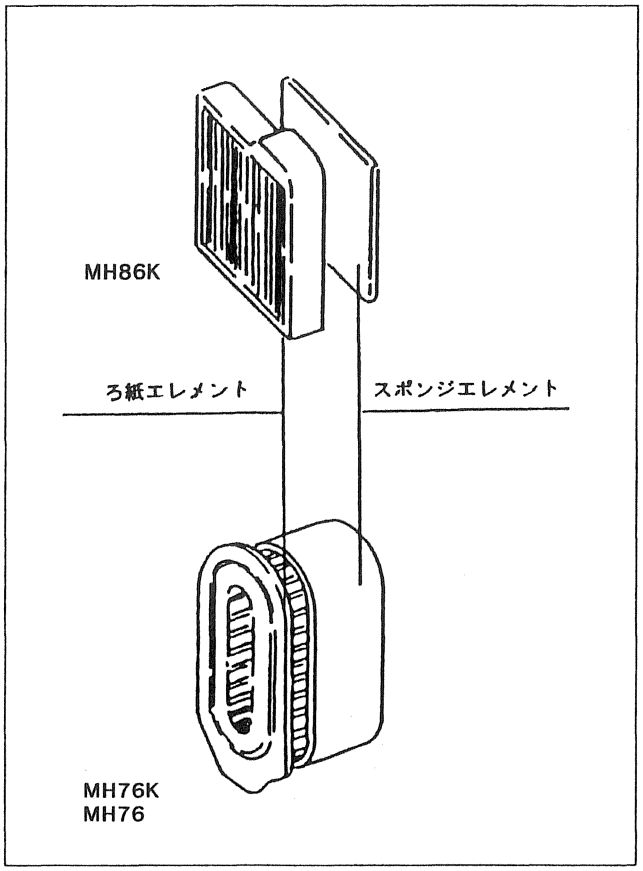
(1) エンジンルームのカバー（左）を開けます。

(2) エアークリーナのフタをはずしてエレメントを取り出します。

(3) ろ紙エレメントは、石けん液で洗浄後、十分に水洗いし、よく乾燥させてから取り付けます。

(4) スポンジエレメントは、ホコリをたたいておとすか、石けん液で洗浄後、十分に水洗いし、よく乾燥させてからエンジンオイルに浸して、固く絞ってから取り付けます。

(5) エンジンルームのカバー（左）を閉じます。



重要

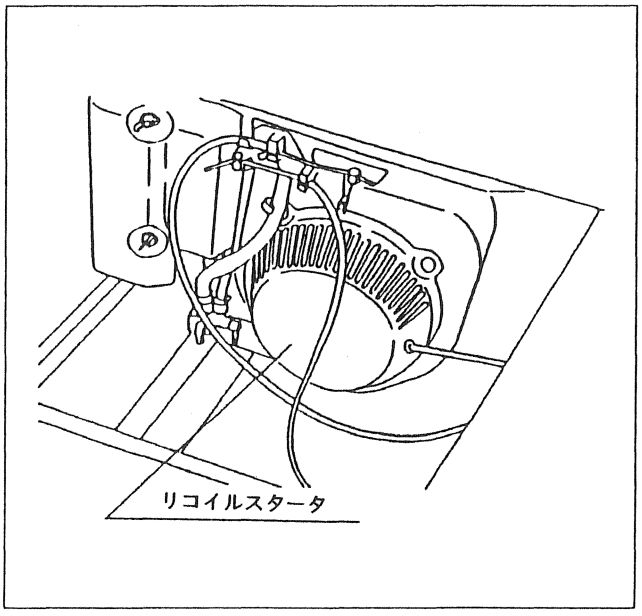
- **ホコリの多い場所では早めに清掃してください。**
- **エレメントは十分乾燥させてから取りつけてください。**
- **清掃時、エレメントを石やコンクリートでたたかないようにしてください。**
- **エアクリーナ各部の締付けは、確実に行なってください。**

■リコイルスタータの掃除

(1) エンジンルームのカバー（左）を開けます。

(2) 回転スクリーンのカバー上に付着したワラ屑を取除いてください。

(3) エンジンルームのカバー（左）を閉じます。

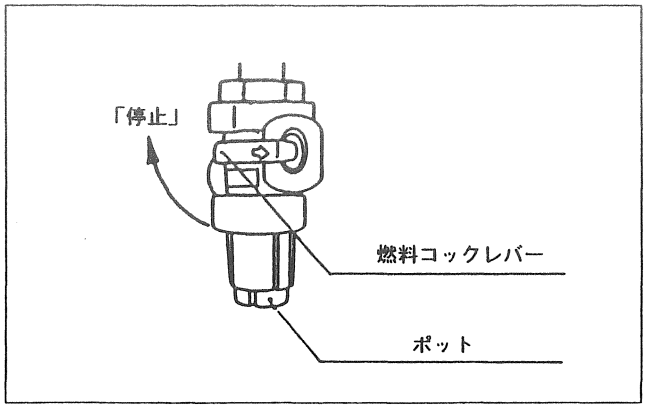


■燃料コックの掃除

危険

(1) こぼれた燃料は、きれいに拭きとってください。

(2) 点検整備するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。



(1) エンジンルームのカバー（左）を開けます。

(2) 燃料コックのレバーを真横に向けて「停止」にします。

(3) フィルター下部のポットをはずして、中に沈殿したゴミを取り除きます。

(4) 燃料もれがないようにポットは元通り締めてください。

(5) 燃料系のゴムホームは使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごと、または傷んだときにはお買い上げ先で新品と交換してください。

(6) エンジンルームのカバー（左）を閉じます。

各部の掃除

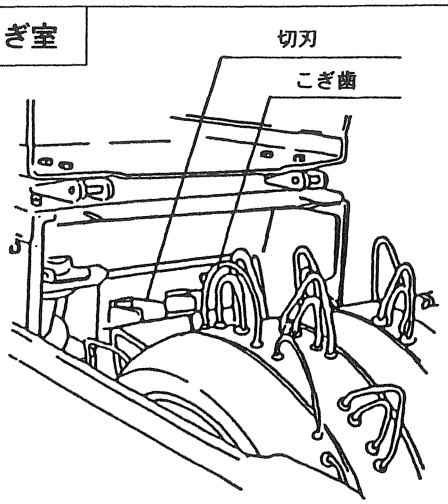
作業が終わったら、各部に付着したワラ屑やホコリをきれいに取り除いてください。

⚠ 警告

(1) 清掃をする時は、必ずエンジンを止め各部の回転が停止したことを確認してください。

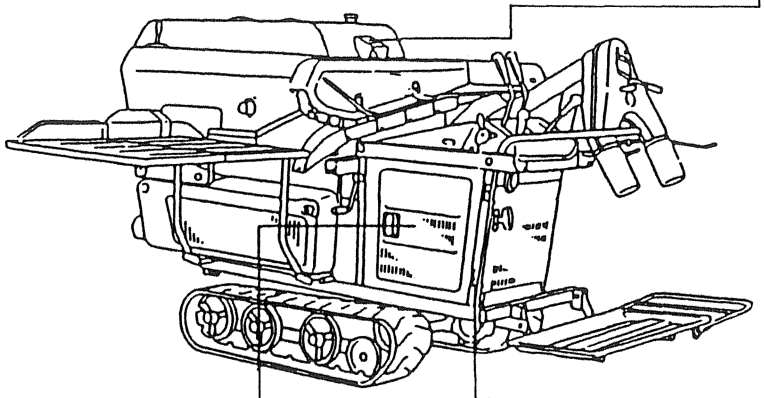
(2) エンジン周辺、特にマフラー付近のワラ屑・ワラ束付着は火災の原因となり、大変危険ですので、頻繁に掃除を行なってください。

こぎ室

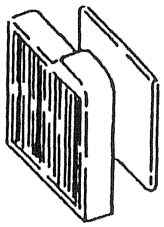


⚠ 警告

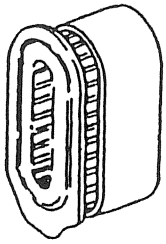
●こぎ室の清掃時、切刃とこぎ歯で手を挟まないように注意してください。
手袋を使用してください。



エアクリーナ

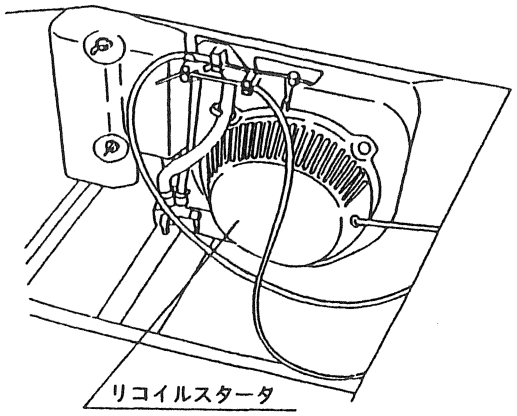


MH86K



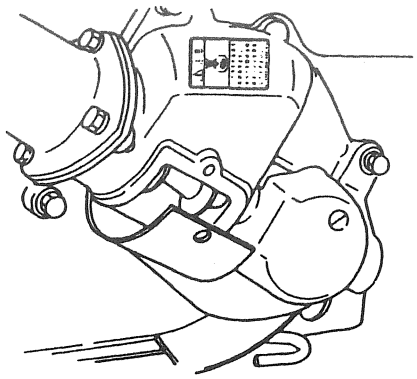
MH76K
MH76

リコイルスタータ

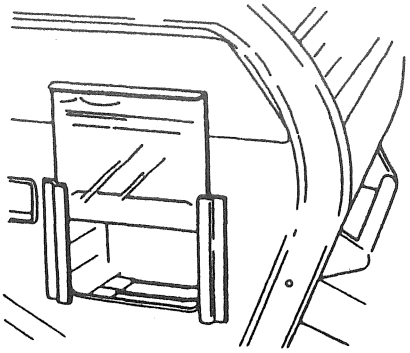


くわしくは41ページ「防塵装置の点検整備」を参照してください。

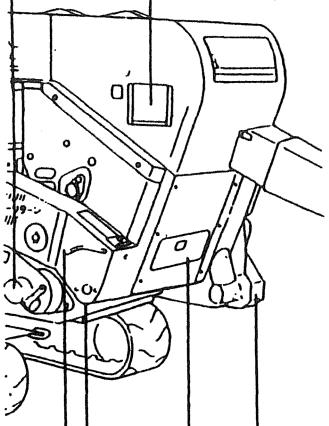
揚穀ラセン



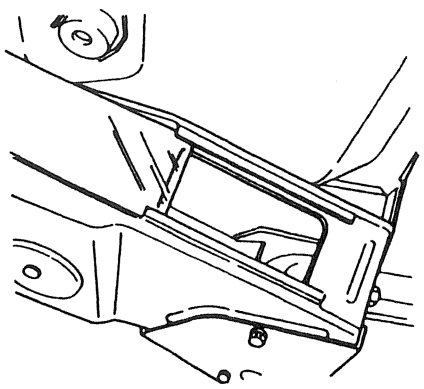
吸引ボックス



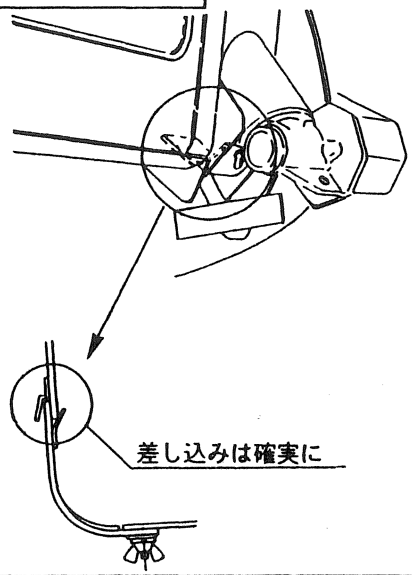
MH86K, MH76K



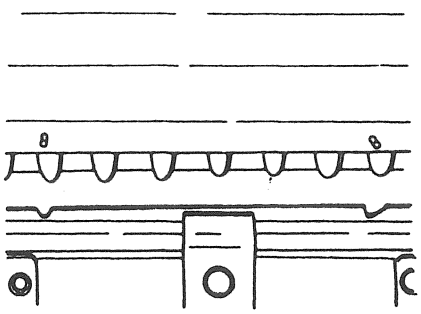
4番揺動棚



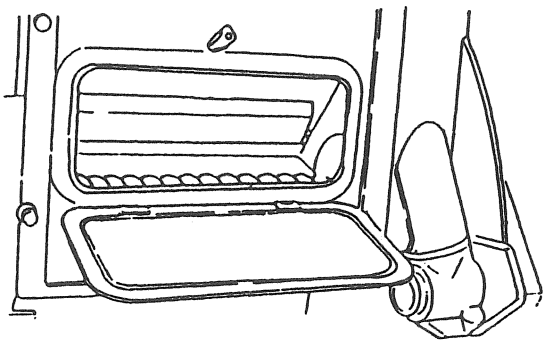
2番還元装置



1番ラセン



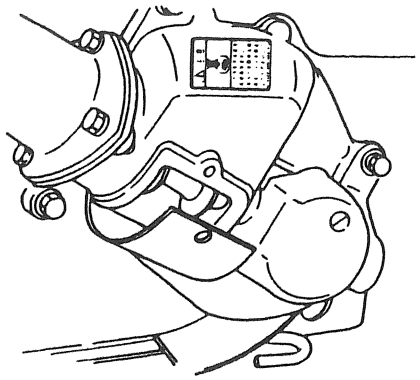
2番ラセン



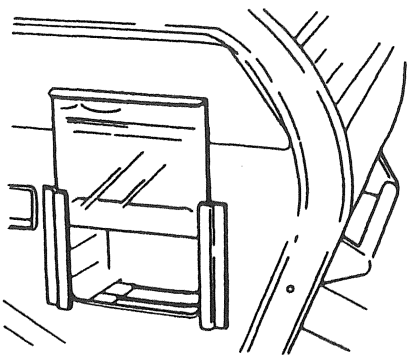
注意

・掃除が終わった後は、安全カバーと掃除口カバーを元通り取り付けてください。

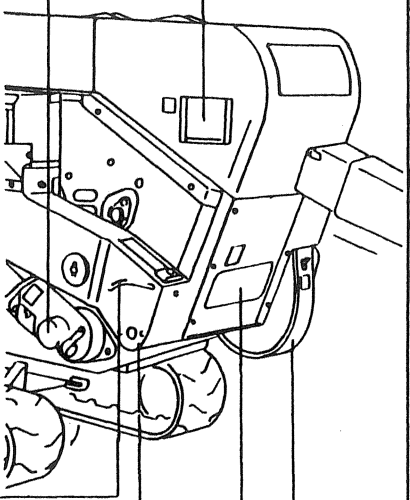
揚穀ラセン



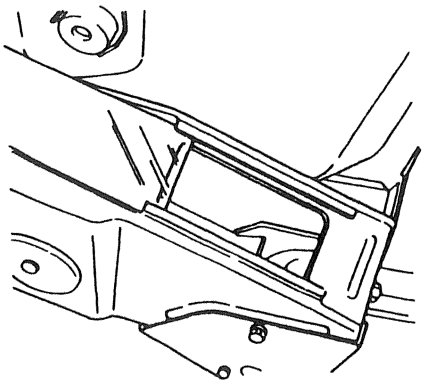
吸引ボックス



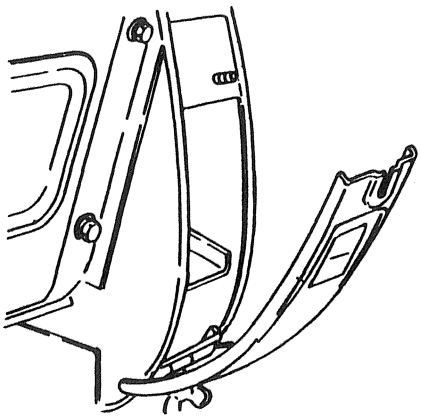
MH76



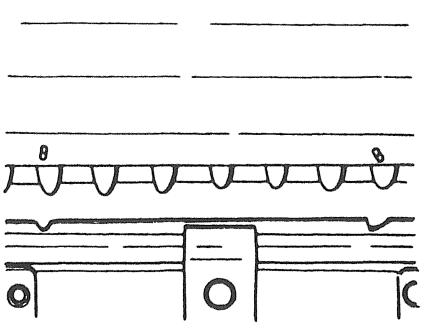
4番揺動棚



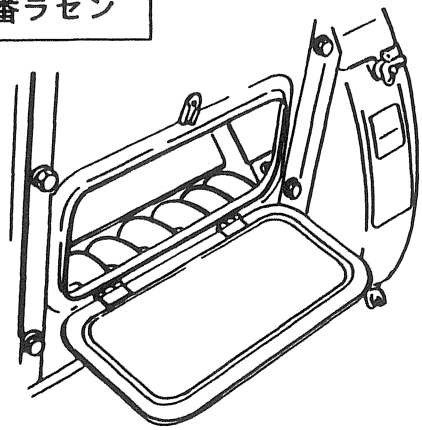
2番スロワー



1番ラセン



2番ラセン



注意

・掃除が終わった後は、安全カバーと掃除口カバーを元通り取り付けてください。

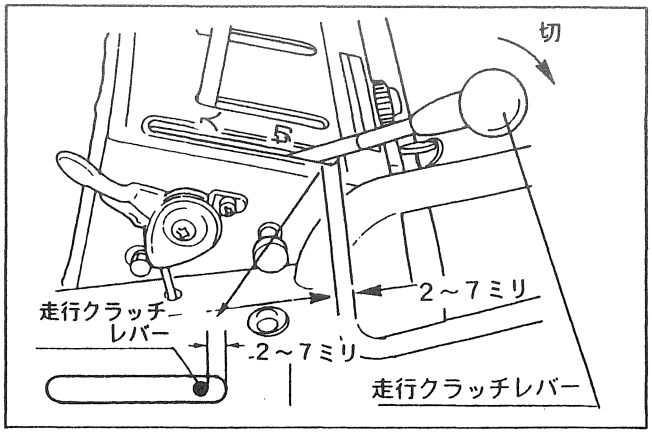
ワイヤとロッドの点検整備

■駐車ブレーキワイヤの調整

(1) エンジンルームのカバー（後）をはずします。

(2) 走行クラッチレバーと、長穴下端のスキマが2～7ミリになるよう、アジャストナットで調整します。

(3) エンジンルームのカバー（後）を取り付けます。



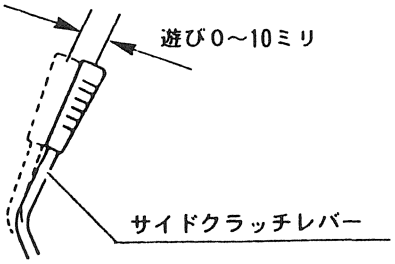
警告

走行クラッチレバーを「切」にしたときレバーが長穴の端に当っていると駐車ブレーキがきかなくなり、大変危険です。

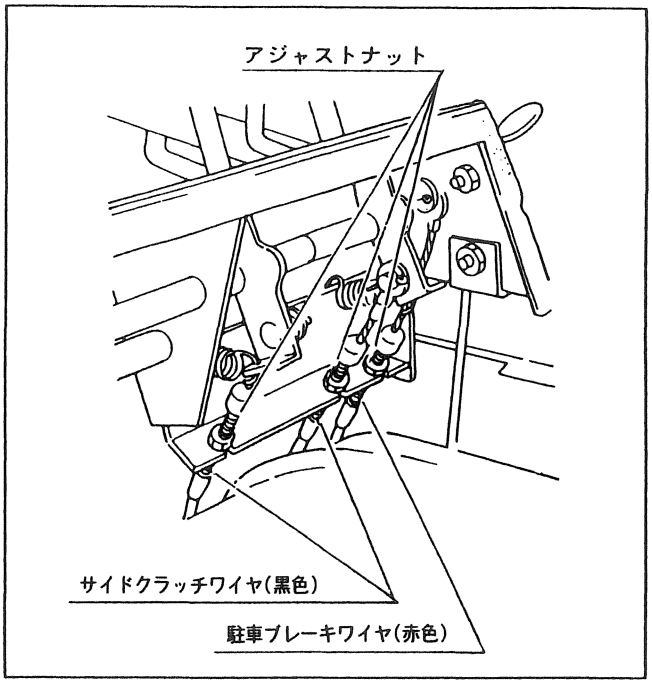
■サイドクラッチワイヤの調整

(1) エンジンルームのカバー（後）をはずします。

(2) サイドクラッチレバー先端での遊びが、0～10ミリになるよう、アジャストナットで調整します。



(3) エンジンルームのカバー（後）を取り付けます。

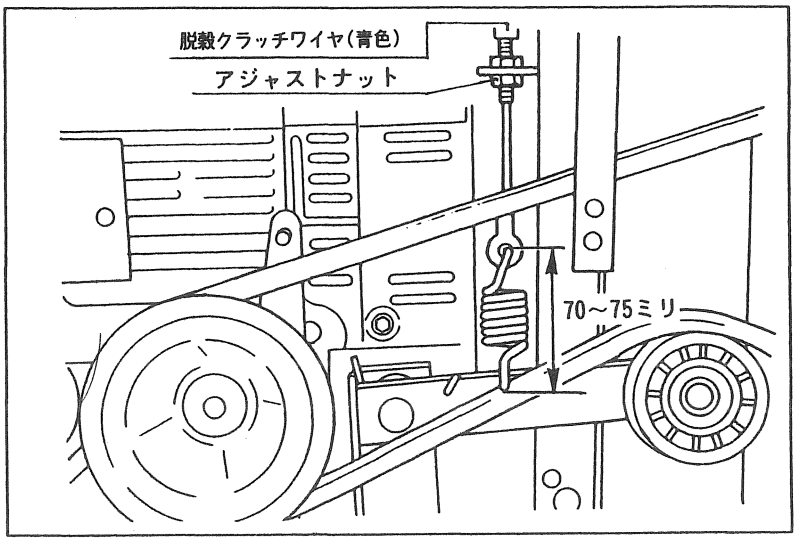


■脱穀クラッチワイヤの調整

(1) エンジンルームのカバー（右）を開けます。

(2) 脱穀クラッチを「入」にした状態で、スプリング全長が70～75ミリとなるようアジャストナットで調整します。

(3) エンジンルームのカバー（右）を閉じます。

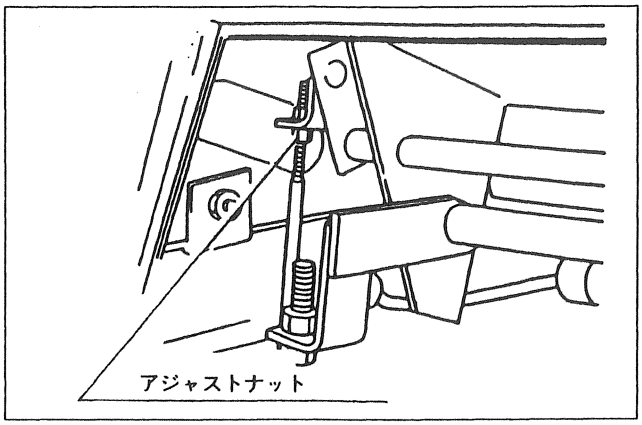


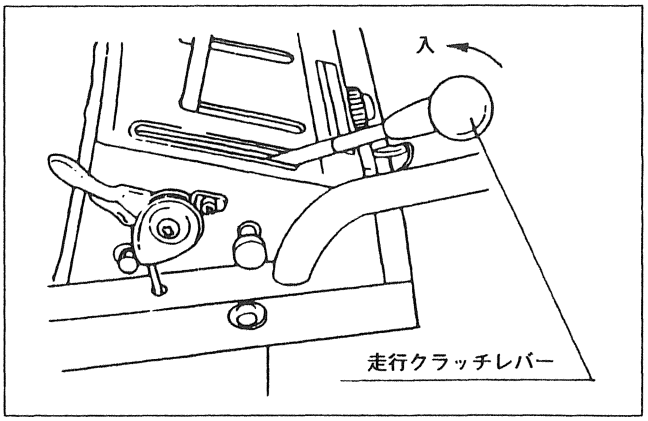
■走行クラッチロッドの調整

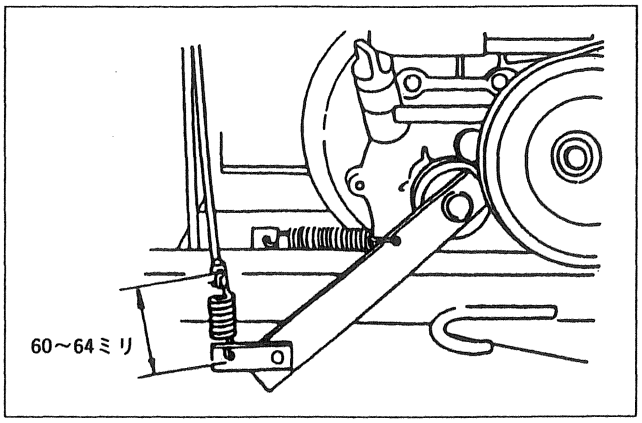
(1) エンジンルームのカバー（右）を開けます。

(2) 走行クラッチレバーを「入」にした状態で、スプリング全長が60～64ミリとなるようアジャストナットで調整します

(3) エンジンルームのカバー（右）を閉じます。





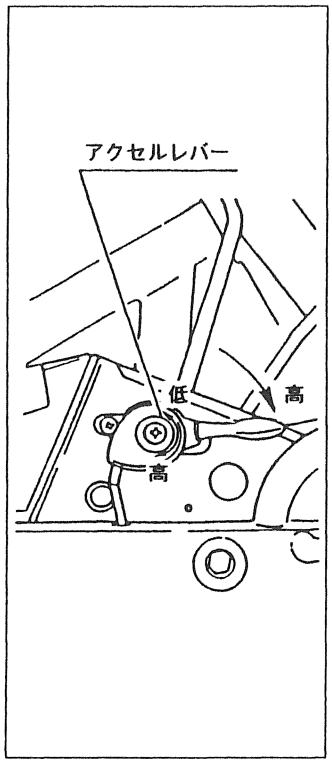


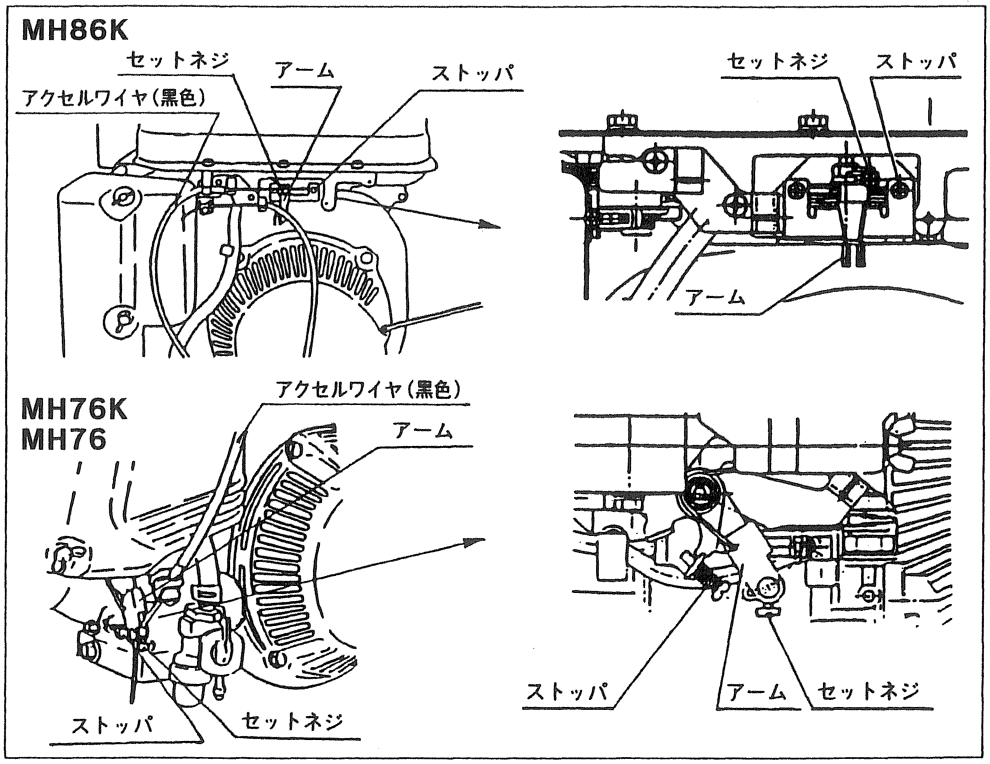
■アクセルワイヤの調整

(1) エンジンルームのカバー（左）を開けます。

(2) アクセルレバーが「高」の位置のとき、アームがストッパに当るよう、セットネジでワイヤのセットを調整します。

(3) エンジンルームのカバー（左）を閉じます。





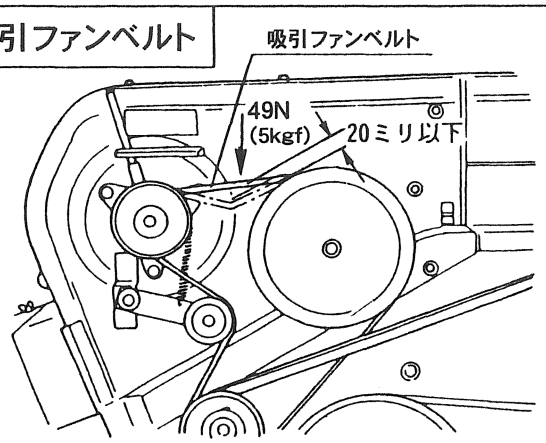
ベルト、チェン、クローラの点検整備

警告

各ベルトの点検・調整は、エンジンを停止し回転が確実に止まったことを確認した後、行なってください。作業時に取りはずしたカバーは、点検・調整後に取り付けてください。

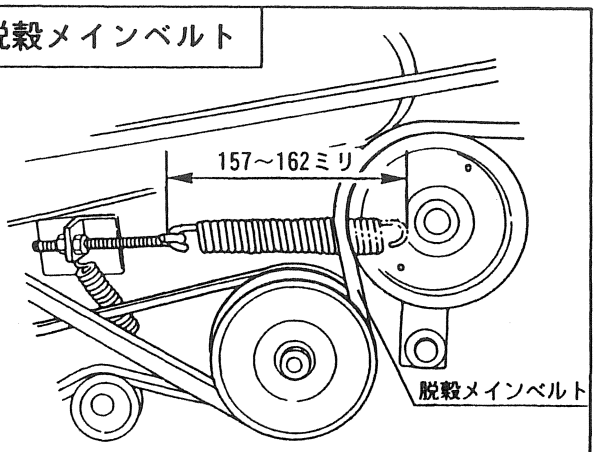
■各ベルトのテンション調整

吸引ファンベルト

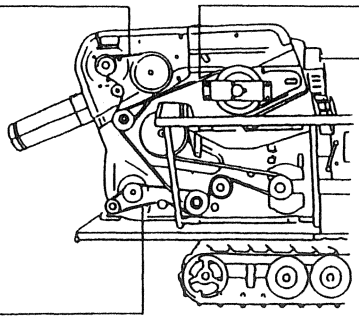


ベルトのたわみ量が20ミリ以上になったらベルトを交換します。

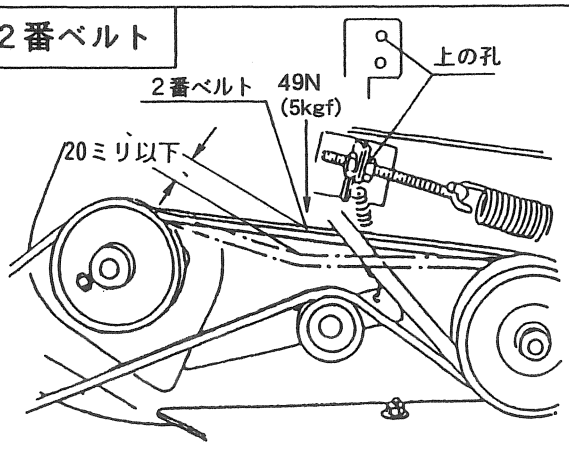
脱穀メインベルト



スプリング全長が157～162ミリとなるようロッドで調整します。

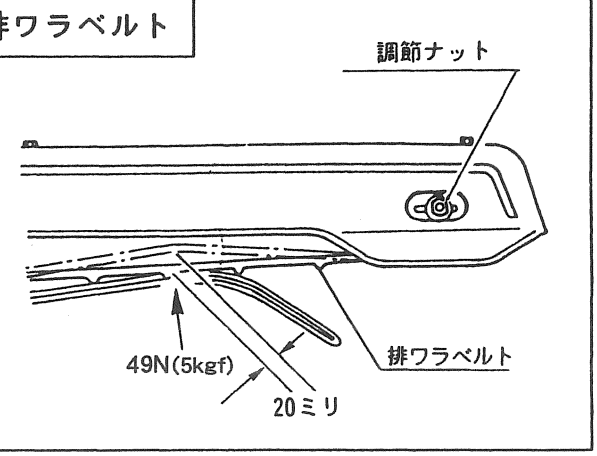


２番ベルト



ベルトのたわみ量が20ミリ以上になったらスプリングを上の孔に掛け替えます。

排ワラベルト



ベルトのたわみ量が20ミリ程度になるようナットで調整します。

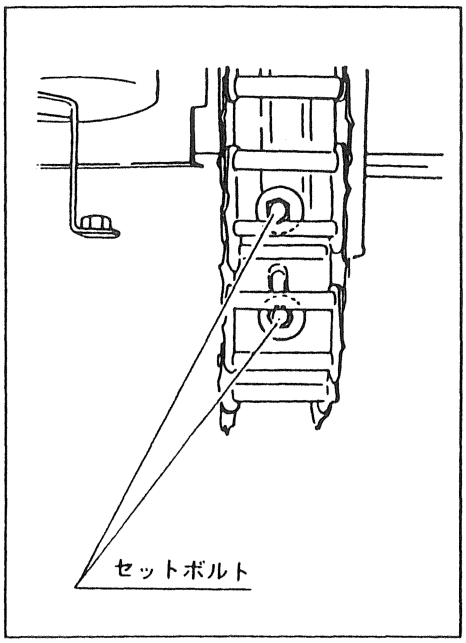
警告

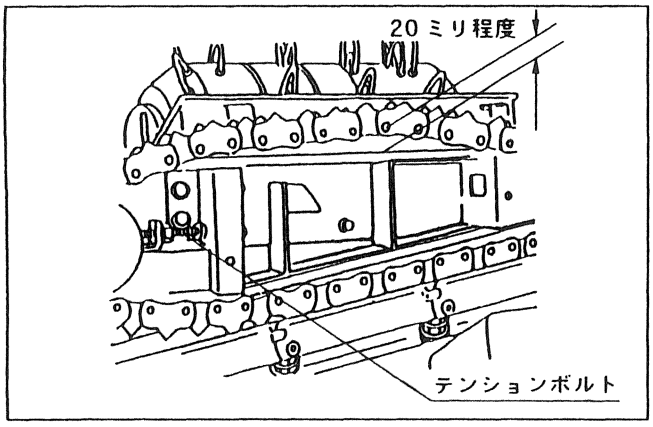
脱穀チェンの点検・調整は、各部の回転が完全に停止したことを確認した後、行なってください。

■脱穀チェンの調整

チェンカバー、ワラ押えをはずして脱穀チェンの中央を手で引き上げます。この状態でチェンとチェンレールとのスキマが20ミリ程度になるよう、セットボルトをゆるめてからテンションボルトで調整します。セットボルトは元通りに締付けてください。

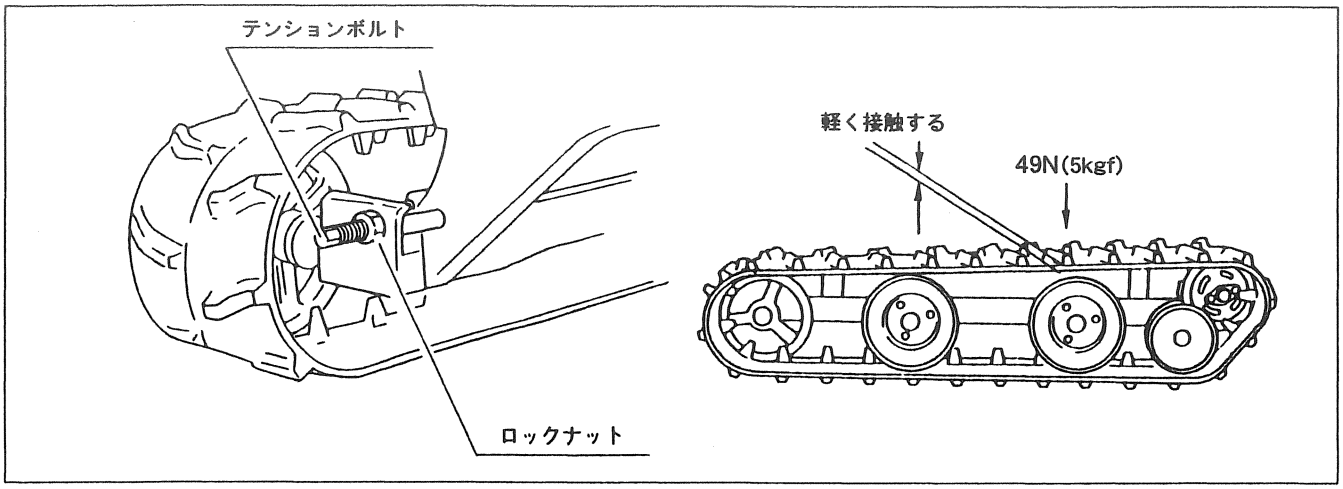
調整後チェンカバー、ワラ押さえを取り付けます。





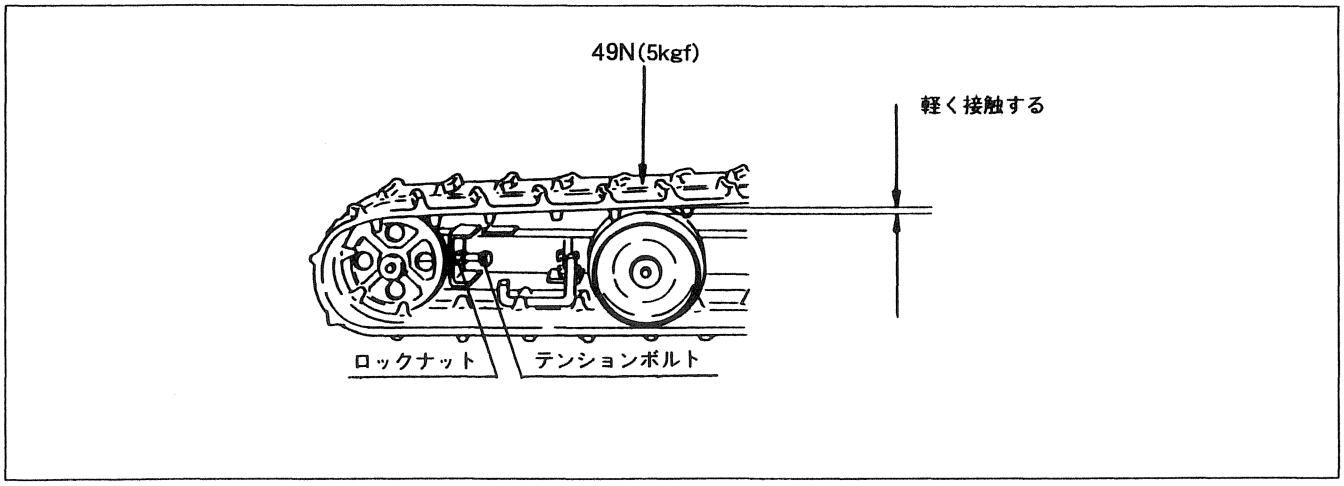
■クローラの調整（MH86K, MH76K）

クローラの中央部を手で49N(5kgf)の荷重にて押し下げて、転輪外周とクローラが軽く接触するように、テンションボルトで調整してください。



■クローラの調整（MH76）

クローラの中央部を手で49N(5kgf)の荷重にて押し下げて、転輪外周とクローラが軽く接触するように、テンションボルトで調整してください。



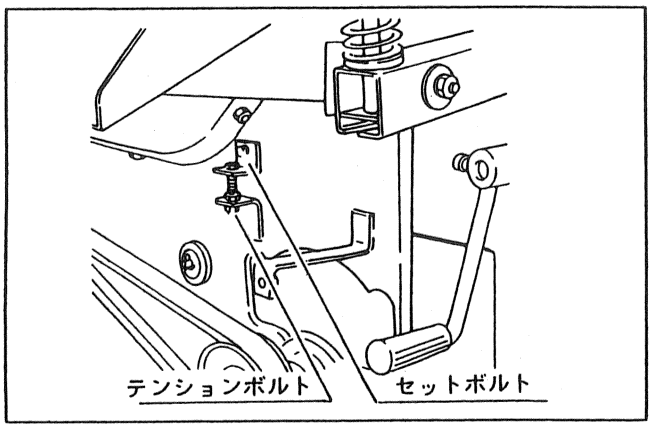
重要

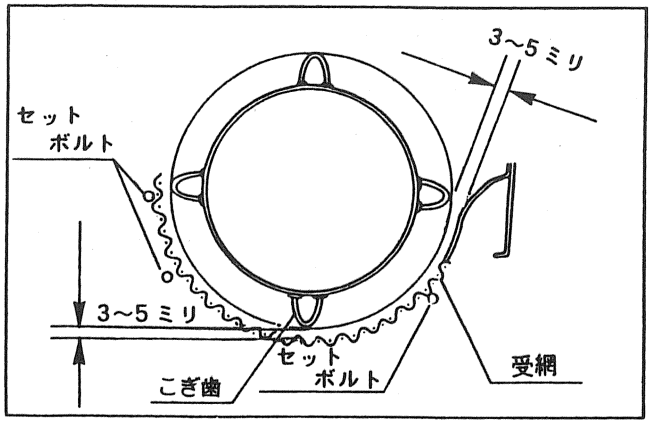
- **クローラの張り量が適正でないと、クローラの耐久性が損なわれたり、脱輪をおこしたりします。**
- **左右のクローラの張り強さは、必ず同じになるように調整してください。**

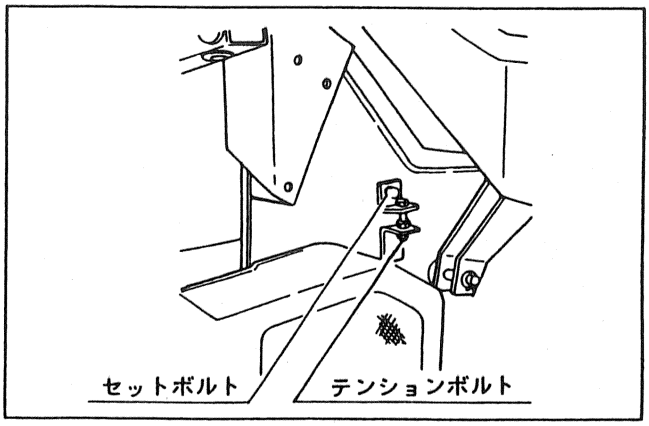
その他の点検整備

■こぎ歯、受網のスキマ調整

こぎ歯の先端と受網とのスキマは３～５ミリとなるようテンションボルトで調整してください。
６箇所のセットボルトをゆるめ、テンションボルトで調整してください。
セットボルトは元通りに締付けてください。



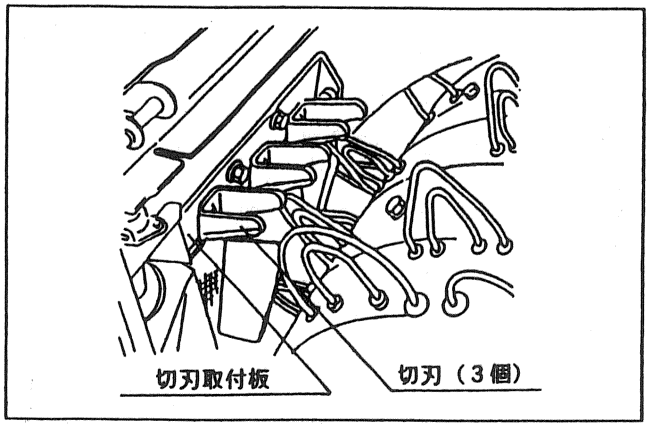




■切刃の交換

> **警告**
> 切刃の着脱は手袋を着用して、刃先に触らないようにしてください。

切刃の切れ味が悪くなると籾の飛散が増えたりゴトゴト音を発生したりします。
吸引ボックスから取付け板ごとはずして交換してください。

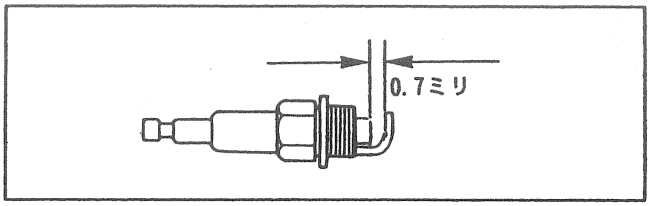


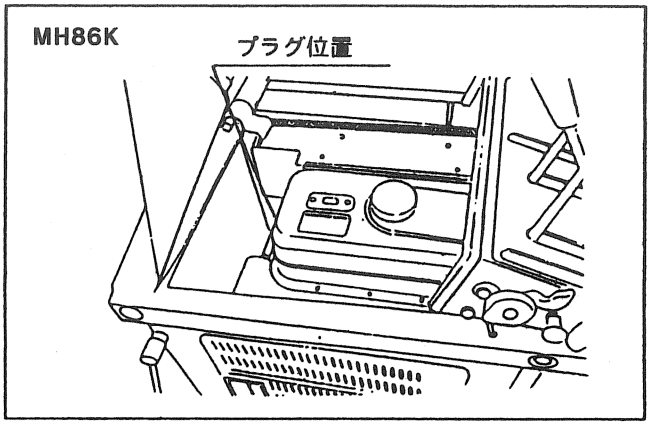
■点火プラグの調整

警告

(1) 点火プラグの点検調整は、エンジンが冷えてから行なってください。

(2) 高圧コードに触れているときにスタータロープを引かないでください。感電することがあります。





付属のプラグレンチを使って点火プラグをはずします。カーボンが付着していたら、ワイヤーブラシか鉄片で取り除いてください。

長期格納時の手入れ

⚠ 警告

(1) 清掃をする時は、回転部など大変危険ですので、必ずエンジンを停止し、エンジンや作動部が停止したことを確認してから行なってください。

(2) シートカバーは、エンジン、マフラーおよび発熱部が冷えてからかけてください。

(3) 格納は平らな場所を選び、ハーベスタが動かないように歯止めをしてください。

(4) 火災防止のため、長期格納時は、燃料タンクやキャブレター内の燃料を抜き取ってください。

(5) 燃料漏れがないか点検し、異常があればお買い上げ先で修理してください。

重要

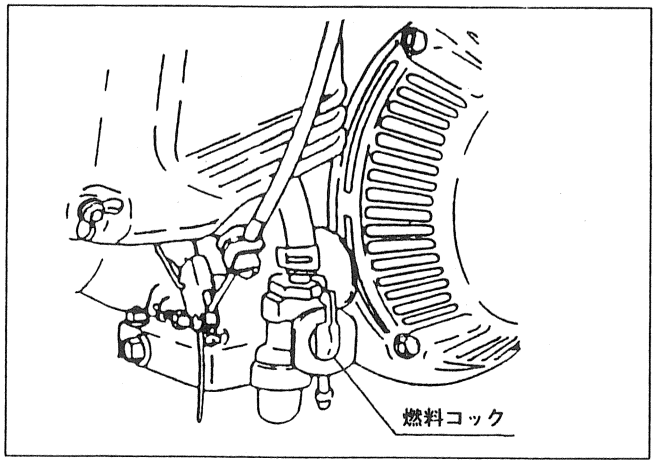
●機械を長持ちさせるため、必ず手入れをしてください。

■燃料の抜き取り

(1) 燃料コックを「排出」にして、燃料タンク、キャブレター内の燃料を容器に抜き取ります。

重要

●キャブレター内の燃料をそのまま放置すると、次シーズンにエンジン始動不良の原因となります。



■清掃のしかた

(1) 各部についた泥やわらくずを取り除いてください。

重要

●脱穀内部、エンジン部、電装品などには水をかけないでください。

(2) 脱穀部の各掃除口を開け、内部の残粒を取り除いてください。

「各部の清掃」44、45ページを参照してください。

■格納のしかた

(1) 湿気の少ない風通しの良い所に板をしいて、機械をのせてください。

(2) 各レバーは「切」にしてください。

(3) 稲置台や籾受台を折りたたんでください。

(4) シートカバーをかけてください。

サービス資料

■推奨潤滑油一覧表

区　分		商　品　名	SAE	API
ガソリン エンジンオイル		ガソリンエンジンオイル	10W－30	SF級以上
ギヤーオイル	走行ミッション	ギヤーオイル	90	GL-5以上
	脱穀ギヤーボックス	ギヤーオイル	90	GL-5以上
一般グリース		ユニルーフNo.2（協同油脂） 他有名メーカのリチューム系一般グリース		
燃　料		無鉛ガソリン（有名メーカ品）		

■純正オイル一覧表

区　分		商　品　名	SAE	API	容量	注文コード番号
エンジンオイル		スーパーマルチGDオイル	10W－30	SL	20L	35201 50210
					4L	35201 50231
		スーパーマルチSTOUオイル	10W－30	SD	20L	35201 50010
					4L	35201 50031
ギヤーオイル	走行ミッション	スーパーマルチSHPオイル	90	GL－5	20L	35201 50310
	脱穀ギヤーボックス					

■諸　元

名称			MH86K	MH76K	MH76
型式名			HMG600	HMG450	
区分			K	K	－
機体質量（重量）（kg）			368	356	326
機体寸法	全長（作業時）（mm）		2130(2670)		2085(2625)
	全幅（作業時）（mm）		1200(2415)		
	全高（作業時）（mm）		1280(1245)		
エンジン	種類		空冷4サイクル傾斜形頭上弁式ガソリンエンジン		
	型式名		FE250G	FE170G－5X	
	総排気量（cc｛L｝）		249 {0.249}	171 {0.171}	
	出力／回転数（PS{kw}／rpm）		5.6 {4.1}／1800 (最大7.7 {5.6})	4.2 {3.1}／1800（最大6.0 {4.4}）	
	使用燃料		無鉛ガソリン		
	燃料タンク容量（L）		5.1		
	始動方式		リコイルスタータ（減圧装置付）		
走行部	変速方式		ギヤー変速、前進2段、後進1段		
	走行速度（m／秒）(エンジン定格回転速度時)	前進	0.25、0.67		
		後進	0.23		
脱穀部	脱穀方式		下こぎ		
	こぎ胴	径×幅（mm）	460×400		
		回転速度（rpm）	イネ 450、ムギ 450～500		
	選別方式		圧風、吸引、揺動		
	穀粒搬送方法		ラセン揚穀		
	穀粒取出方式		切換シャッター付、左右2口袋詰め		
作業能率（分／10アール）			40～60	40～75	

作業能率は籾を75kg／俵として籾流量1125kg／時（15俵／時）を最高値としますが、作物条件（乾燥度合、反当収量、脱粒性等）によって変化します。

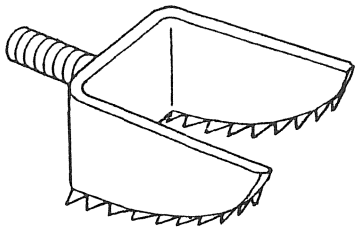
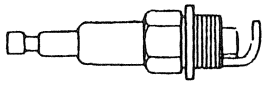
区分のKはスタンダード仕様、－はエコノミー仕様です。

■主な消耗部品一覧表

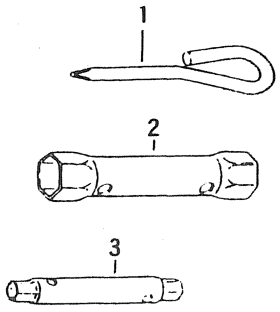
主要な消耗部品を表示しました。

ご注文の際は、部品番号をお知らせください。

なお、その他の部品ご注文の際は、販売店・農協に純正部品表「パーツリスト」を準備しておりますので、そちらでご相談ください。

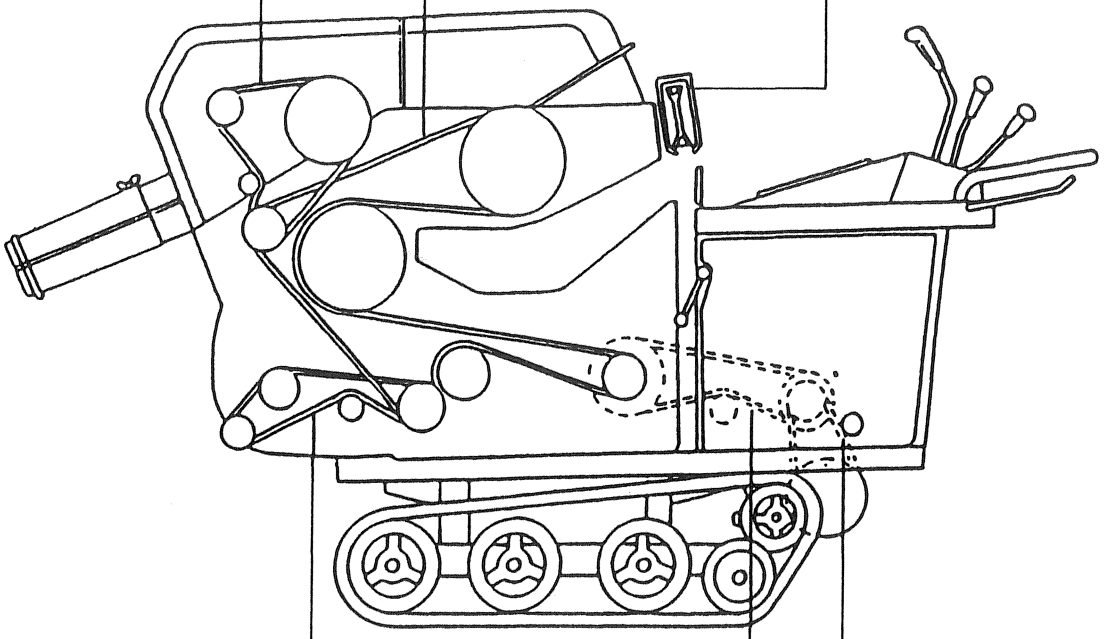
形　　状	品　　名	品　　番
	キリハ　COMP	９７３１―０００―６３０
	プラグ (NGK BP－5ES)	２６９４―１０００―６４０

■付属工具一覧表



番号	品　　名	個数
1	ツール（ドライバ）	1
2	ソケットレンチ	1
3	ツール（レンチ）　8×10	1

■ベルトサイズ一覧表



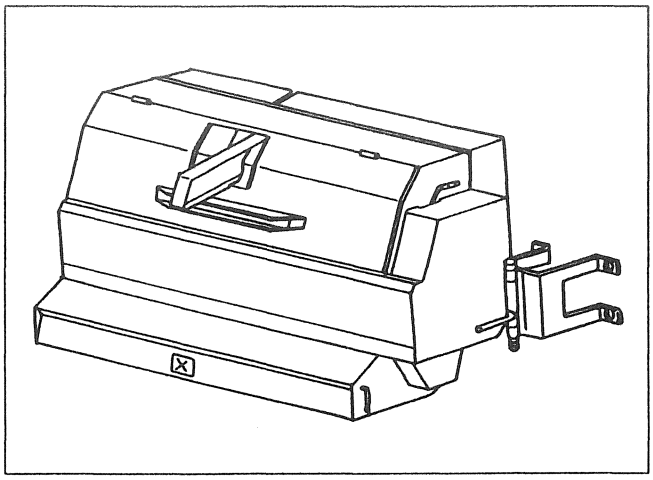
重要

各ベルトは必ず、上記一覧表の規格品〔弊社純正部品〕を使用してください。これ以外のベルトでは十分な耐久性と伝達性能を発揮できません。

注文部品の紹介

■ドロッパ付ディスクカッタ

ワラ排出方式	切断、集束
切断寸法（ミリ）	77
供給量	毎分20束以下（中束）



●注文部品名（本機扱い）

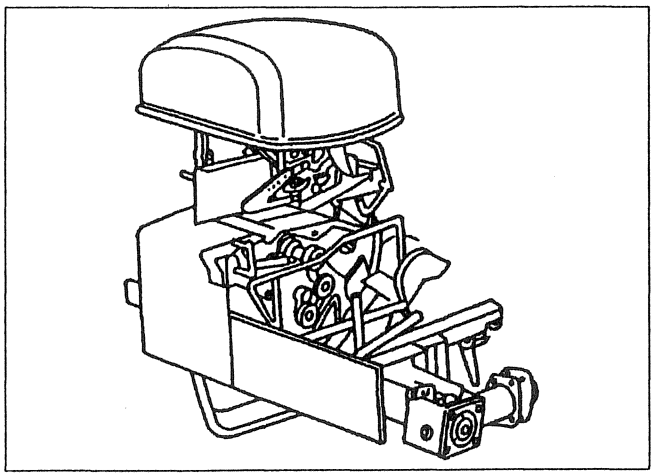
カッタ　CH86−11D

●ワラは乾燥状態で基本的にはバインダー結束のものに限ります。

●MH76には装着不可。

■ノッタ

ワラ排出方式	結束
結束の大きさ	5〜12束
供給量	1.5秒供給間隔



●注文部品名、コード番号

KSH−86　37101　50110

●MH76には装着不可。

●MH76Kに装着する場合は乾燥脱穀および束供給間隔が2秒以上の作業効率を条件とします。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

機械番号(製造番号)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

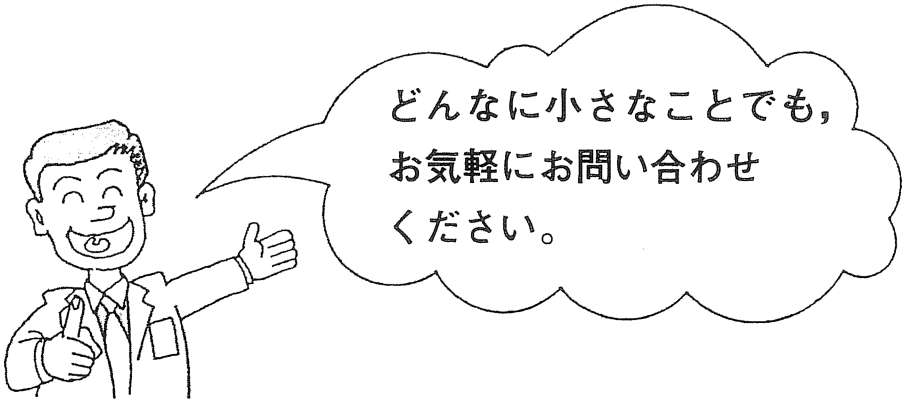
●ご使用状況は…？

(どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 ＿＿＿＿＿ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

TEL　　(　　)